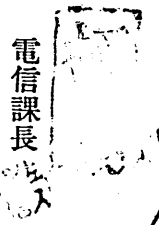


大臣 次官
 電信課長
 亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

分類 A.1.1.0.21-12-2-1



昭和7 九二五一 暗 長春 本省 四月十五日 前着 十四日後發 亞

芳澤外務大臣 田代領事

第一五〇號 (至急、極秘)

本十四日田中大使來長駒井大橋本官同席ノ上協議ノ結果願維鈞ノ入
 滿拒否ノ方針ハ絕對變更ヲ許ササルモ願ニ變フルニ新國家側ニ於テ
 承認シ得ヘキ人物ヲ以テスルニ於テハ再考ノ餘地アル旨別電第一五
 一號ノ如キ電報ヲ謝介石ヨリ直接在北平「リットン」卿宛發送セリ
 支、北平、天津、南京、聯盟、米、在滿洲各領事へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0-34

176

0160

REEL No. A-0180

0238

アジア歴史資料センター

極秘

参同文
昭和七、四、一四

四、一三後四、三〇
七、二五著

陸軍次官宛

関東軍参謀長

関参 六、七、六

陸満六九四蹄返。顧維鈞入國阻止問題
= 関シ軍ハ大体ニ於テ傍觀主義ヲ採
ルニ滿洲國ニ對シテハ左ノ如ク要望
スル事トセリ

→ 支那兵ノ入國ヲ阻止スルコトハ當然
ナルモノト信スルモ顧維鈞ノ阻止ハ
滿洲國ノ自由意志ニ存スヘシト考ヘ
アリ但シ縱令警察等ヲ以テ下車ヲ要

求スルコトアリトスルモ錦州以西ニ
於テ実施スルコトヲ適當トスヘシ

→ 滿洲國軍隊ノ一部ヲ増遣スルコトハ
軍トシテ妨ケス
關シテハ平素連絡要路ニテ是ルハク
警同特別ニ變更スルノ要ナルヘシ尚一行ノ
警戒等ニ

→ 北寧線、奉山線ノ直通列車運轉ニ関
シテハ軍ハ從來ノ關係上滿洲國ノ
依頼ニ應シ便宜ヲ與フヘキモ滿洲

國ノ主権ニ對シテ公正ナル立場ノ下
ニ相當尊重スルノ主義ニテ進ム所

存ニシテ此ノ際聯盟ニ忠實ナルヲ
余リ及ツテ中華民國ヲ壓迫シ若シ

クハ之ヲ輕視スルカ如キ態度ヲ絕對
ニ避クル予定ナリ

滿洲ノ觀察ヲ為サシムル件ニ就テハ充分
努力スヘシ
聯盟ニ公正ナル
不

極秘

(一)帝國ハ聯盟其他中外ニ對シ我方ハ單ニ帝國臣民ノ生命財産ノ保護ニ止ラス滿洲全般ノ治安維持ノ責務ヲ有シ從テ滿洲國側警備力ノ不充分ナル現下ノ實狀ニ於テハ附屬地外駐屯ノ帝國軍ノ撤收ハ不可能ナリトノ主張ヲ宣明シ居ル次第ニシテ右我方ノ主張ハ帝國軍滿洲内地駐兵ノ現狀ヲ持續スルト共ニ將來萬一支那本部等ヨリ軍隊侵入シ來ルカ如キ場合我軍ニ於テ之カ阻止手段ヲ執ル爲メ重要ナル理論的根底ヲナスモノナリ

(二)一方帝國ハ聯盟ニ對シ調査委員會ノ任務遂行ノ爲メ同委員會ニ對シ各般ノ便宜ヲ供與スヘキコトヲ約束シ居ル次第ナルヲ以テ調査委員會ノ入滿ニ關シテモ租借地及附屬地ハ申ス迄モナク右地域外

外務省

7.2
S 1.1.1.0-34

179

0162

ニテモ帝國軍ノ實力ノ及フ地方ニ於テハ之ニ必要ノ保護ヲ與フルコトヲ要ス

而シテ調査委員會ハ奉山鐵道ニ依リ入滿シ錦州、奉天、長春、吉林、哈爾濱、齊々哈爾ノ各地ヲ巡歴スル豫定ナル處此等各地及其ノ間ノ交通路ハ當然帝國軍ノ實力ノ及フ範圍ト認ムヘキモノナリ

(三)然ルニ顧維鈞ハ吉田大使ト共ニ各々日支ヲ代表シツツ調査委員會ノ構成分子ヲナスモノナルニ付(理事會決議ニ基ク)我方ニ於テ調査委員會ニ保護ヲ與ヘツツ顧維鈞ノミニハ之ヲ與ヘスト云フカ如キコトハ不可能ナリ從テ例ヘハ調査委員會カ奉山鐵道ニ依リ來奉スル場合其ノ一驛ニ於テ滿洲國官憲カ顧維鈞ヲ逮捕シタリトセムカ我軍ハ其ノ實力ノ及フ地方ニ於テ調査委員會ニ對シ充分ノ保

外務省

7.2
S 1.1.1.0-34

180

0163

REEL No. A-0180

0240

アジア歴史資料センター

護ヲ與ヘ得サリシ結果トナリ第一項ノ我方ノ主張ニ極メテ不利ナル影響ヲ來スヘシ

は(七)

外務省

7.2
S 1.1.1.0-34

181

0164

REEL No. A-0180

0241

アジア歴史資料センター

亞細亞局

關機高支第五七〇五號ノ二

第一調

昭和七年四月拾九日接受



昭和七年四月十四日

情報部

關東廳警務局長

拓務	次官	殿
內閣	書記官	殿
外務	次官	殿
省務	局長	殿
警務	局長	殿

外交部總長發表

滿洲國政府外交部總長謝介石ヨリ左記發表セリ

記

四月九日

滿洲國政府外交總長

謝介石

中華民國外交總長羅文幹宛電報

情報ニ依レハ貴國ハ正ニ願維鈞氏ヲシテ隨員ト共ニ近ク滿洲國ニ
 來ルヘキ國際聯盟調査委員ニ隨ヒ來滿セシムル由ナルカ滿洲國三
 千萬民衆ノ好意ニ依リ軍閥ヲ驅除シ崇高ナル理想ノ下ニ新國家ヲ
 建立シタルカ故ニ貴國ニ對シテハ極メテ相互的和合關係ヲ修メン
 コトヲ欲シ若シ代表或ハ當局ノ要人遠來セハ正ニ禮ヲ以テ歡迎ス
 ル筈ナル處只貴國カ民意ニ宣傳シテ我國ヲ以テ僞國家トシテ退ケ
 我當局ノ人々ヲ以テ反逆者ト譏ル爲ニ當國民衆ハ貴國ニ對シ感情
 ヲ著ク刺戟スル折柄願氏一行入京セハ不逞ノ徒ニ種々ノ機會ヲ與
 ヘ其結果將來相互親善關係ノ阻害トナルナキヲ保シ難ク依テ貴總
 長ヨリ願氏一行ヲシテ來滿セサル様御取計アリ以テ意外ノ事態ヲ
 醸ササル様御處置有度

S 1.1.1.0-34

183

0166

S 1.1.1.0-34

182

0165

右特ニ辭謝スモシカラス御丁承乞ヌ
滿洲國聯盟調查委員歡迎委員

- | | | |
|-----|--------|-----|
| 委員長 | 外交部總長 | 謝介石 |
| 委員 | 東支鐵道督辦 | 李紹庚 |
| 同 | 理事 | 池瑞麟 |
| 同 | 國務院祕書長 | 鄭垂 |
| 同 | 長春市長 | 金壁東 |
| 同 | 軍政部次長 | 王靜波 |
| 同 | 奉天市長 | 閻傳波 |
| 同 | 哈爾濱市長 | 鮑觀澄 |
| 同 | 興安局總長 | 齊生 |

以上

S 1.1.1.0-34

184

0167



大臣

次官

情報部長

事務局長

電信課長

主任

昭和七年四月一四起草

暗	電送第 73256 號	管主
送	昭和 7 年 4 月 14 日 午後 8 時 30 分	主任
件	宛	在 北 平 矢野參事官
件	額入漏ニ係ル件	發
第 六 九 〇 號	名 件 録 記	芳澤大臣

往電第 六七 號ニ關シ

吉田大使へ

長春宛往電第 三六 號ニテモ御承知相成ルヘキ通り帝國政府ハ聯明

電信案

外務省

(原議用紙乙)

其他中外ニ對シ我方ニ於テハ單ニ帝國臣民ノ生命財産ノ保護ニ止ラ
 ス滿洲全般ノ治安維持ノ責務ヲ負擔シ居リ從テ滿洲國側警備力ノ不
 充分ナル現下ノ實狀ニ於テハ附屬地外駐屯ノ帝國軍ノ撤收ハ不可能
 ナリトノ主張ヲ宣明シ來リ居リ且右我方ノ主張ハ帝國軍滿洲内地駐
 兵ノ現狀ヲ持續スルト共ニ將來萬一支那本部等ヨリ軍隊侵シ來ル
 カ如キ場合我軍ニ於テ之カ阻止手段ヲ執ル爲メ重要ナル理論的根底
 ヲナスモノナルニ付此際各般ノ困難ヲ忍ヒテモ我軍保護ノ下ニ調査

電信案

外務省

S 1.1.1.0-34

186

0169

S 1.1.1.0-34

185

0168

REEL No. A-0180

アジア歴史資料センター

電信案

外務省

陸軍ト協議スミ

ムル様御取計相成度

別紙ト共ニ

奉云、滿長考、又、南東、天津、聯軍、米、

張色シ奉天ヲシテ長考ヲ除ク中東ノ在滿領事、

又、駐在ヲシテ美、仏、英、露、張色セシメ

カ

(原議用紙乙)

S 1.1.1.0-34

188

0171

電信案

外務省

委員(下)ノ任務遂行ニ出來得ル限り支障ナカラシメムコトヲ希望シ

居ル次第ニテ旁々新國家側ノ説得ニ極力努力シ居ルモ何分南京宛通

牒直後ノコトトテ其ノ面目問題モアリ無理ニ之ヲ押シ付クル譯ニモ

行カサル一方(調査)委員一行カ此際直チニ山海關ヨリ入滿スルコトハ

相當ノ危険ヲ伴フモノト思考セラルルニ就テハ敍上ノ次第御舎ノ上

「リットン」卿ニ對シ別電第 〇 號ノ通り申入レラレ此際(調査)委

員(一)行ヲシテ大連ヲ經由セシムルカ又ハ一時北平出發ヲ延期セシ

(原議用紙乙)

S 1.1.1.0-34

187

0170

7959 7年4月14日 8時30分

電 信 案	外 務 省	件 船の揚子江	宛 在 北平 天野参事官	管主 主 田中義一 任 主 田中義一 (起 華 内 務 省 七 年 四 月 一 日)
願維鈞入滿問題ニ關シテハ目下切角滿洲國側ノ説得ニ努メ調査委員 一行カ豫定ノ通り奉山線ニヨリ入滿シ得ル様滿洲國ノ諒解取附方盡 力中ナル處結局右諒解ヲ取付ケ得ルトスルモ之カ爲メニハ相當時日 ヲ要スヘシト思考セラル就テハ調査委員側カ我方盡力ノ結果ヲ待ツ		發 芳澤大臣	名込級	

S 1.1.1.0-34

190

0173

7967-7972 7年4月14日 8時30分

電 信 案	外 務 省	件 船の揚子江	宛 在 北平 天野参事官	管主 主 田中義一 任 主 田中義一 (起 華 内 務 省 七 年 四 月 一 日)
願維鈞入滿問題ニ關シテハ目下切角滿洲國側ノ説得ニ努メ調査委員 一行カ豫定ノ通り奉山線ニヨリ入滿シ得ル様滿洲國ノ諒解取附方盡 力中ナル處結局右諒解ヲ取付ケ得ルトスルモ之カ爲メニハ相當時日 ヲ要スヘシト思考セラル就テハ調査委員側カ我方盡力ノ結果ヲ待ツ		發 芳澤大臣	名込級	

S 1.1.1.0-34

189

0172

7960 7965
7年4月14日 8時30

電 信 案	外 務 省	未石陸軍北平免電報字 〇〇号	宛	件	管主
		本暗	第 〇〇〇 號	領入 備忘 平之件	任主
		以下同電文	在皇軍先公使 在皇軍先公使 在皇軍先公使 在皇軍先公使 在皇軍先公使 在皇軍先公使 在皇軍先公使 在皇軍先公使	名込綴	初稿 七年四月十日
			發		(原議用紙甲) 圖箱

S 1.1.1.0-34

192

0175

電 信 案	外 務 省	ナリト思考ス	ヲ避クルト共ニ不慮ノ事件ノ發生ヲ防キ實際的ニ目的ヲ達スル所以	治安狀況ト關東軍ノ保護可能範圍ヲ考慮シ決定ナル方當面ノ面倒	經由ニテ一先附屬地ニ入ルコトトシ爾後附屬地外トイテ行動ハ現地ノ	ヲトナク豫定期日ニ入滿スルコトヲ希望スルニ於テハ寧ロ此際大連	ヲ得ルヲ望ム
-------------	-------------	--------	--------------------------------	-------------------------------	---------------------------------	--------------------------------	--------

S 1.1.1.0-34

191

0174

送
先

會文人文情條通歐亞細亞
計書事化報約商米
次大臣
官
電信課長

分類 A.1.1.0.2/12-2-1

9263 Cipher.
Choshun, April 15th a.m.
Received, April 15th p.m., 1932.
Gaimudaijin, Tokio.
No. 151. (urgent)

We desire to extend our hearty welcome to your Commission ^{which?} ~~whatever~~, we learn, is soon to visit Manchuria and we wish to receive you not only with courtesies but offer facilities in an aid to the fulfilment of your great mission. However, we feel free to ask that you will recognize the fact that our refusal to admit Mr. Koo Wei-chün, China's Assessor to your Commission, and his staff ^{Mister?} into our boundaries, as telegraphed recently to ~~recognition~~ Lo-Wenkan of Nanking Government, is simply based on the ^esovereign right to guard peace and order within the borders of our state. Mr. Koo whose peculiar relation with the former military regime in Manchuria is widely known, is, as we are informed, planning to take advantage of his coming with your Commission into Manchuria in carrying out sinister designs upon us with co-operation of the remnants of the old

外
務
省

S 1.1.1.0-34

193

0176

regime who are still found in large numbers in our country.

In view of these facts you will appreciate the step that we have taken, and understand our firm attitude on the issue.

I can state, however, that should some other suitable Assessor acceptable to us be substituted we would not be loath to the reconsideration of the matter.

Tashiro.

外
務
省

S 1.1.1.0-34

194

0177

REEL No. A-0180

0248

アジア歴史資料センター

電信課長

大臣

次官

亞細亞
歐米
通商
條約
情報



寫送先

會計
會
欲、以新條件
を向けるあり
お後送致更
の

A.1.1.0 21-12-2-

昭和7 九三〇二 暗

本省

十五日後發

亞

芳澤外務大臣

第一五五號(極秘)

田中大使ヨリ

長春領事宛貴電第三六號ニ關シ

十四日長春着直ニ大橋ト懇談セリ本件ニ關スル滿洲國ノ態度ニハ相
當理由アリ殊ニ顧維鈞ハ必ス辛辣ナル攪亂運動ヲナスヘク其ノ入國
ハ滿洲國ハ勿論日本ニ取りテモ甚タ有害ト認メラルルニ付往電第一
五一號ノ通り「リットン」卿へ直接打電シ滿洲國ノ正直ナル態度ヲ
明カニシ幸ニ顧ヲ更迭セハ後任者ニ對シテハ大抵ノ所ニテ折合フヘ

滿洲日支衝突關係一件
善後措置
聯邦支那關係
等

外務省

S 1.1.1.0-34

195

0178

解、以新條件
を向けるあり
お後送致更
の
P
故に入らば
なれはナリ

キコトトシ置ケリ本使ノ見ル所ニ依レハ聯盟トシテノ大目的ハ滿洲
ノ實狀調査ニ在ルヲ以テ其ノ目的ヲ達成スル爲地方ニ存在スル權力
ノ意圖ヲ尊重スヘキハ當然ニシテ滿洲國ノ獨立ヲ認メサルハ已ムヲ
得ストスルモ地方權力トシテノ存在ヲモ無視シ萬事日本ニ責任ヲ執
ラシメントスル遣方ハ甚タ無理ナリ解決案トシテハ租借地及附屬地
ノミヲ旅行セシムルカ如キハ甚タ姑息ニシテ右目的ヲ達成スル所以
ニ非ス寧ロ日支雙方共ニ參加委員ノ同行ヲ遠慮シ彼等ノミニテ隨意
ニ調査セシムルノ方法ヲ執ルコト最モ適當ナルヘシト信ス
支、北平、天津、奉天、南京へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0-34

196

0179

電信寫

昭和
秘

暗

北平
本省

四月十五日前着

再
印

芳澤外務大臣

矢野參事官

第一八一號（至急、極秘）

往電第一七四號ノ二末尾「知レリ」ハ「知レリト語レリ」ト訂正ア
リタシ

冒頭電報ト共ニ長春ニ轉電セリ

S 1.F.1.0-34

197

0180

REEL No. A-0180

0250

アジア歴史資料センター

寫

大秋

次官

隱込保友

北平	無味	北平	多 (一三五)
次官	(二連日令官)	在北平	海軍輔官
秋	第 三 三 五 号		
外務大臣	奉北平紀第 七 〇 號	奉照了り	
解盟	奉自一河ハ滿ニ考	海路ニ依リ	コトトモ場合
滿鐵	ノ船轉	ハ潮時等	因係上ニ
上ニ	據上ハ	ルヲ得	ル一方
ハ	五ト	シテ	日程
大連	間ハ	既	運

海軍

S 1.1.1.0-34 198 0181

陸	海	方	針	ニ	對	シ	テ	得	ル	ガ	認	メ	ラ
右	事	情	ニ	對	シ	テ	第	二	遣	外	隊	所	屬
司	令	官	ノ	適	当	ト	認	メ	ラ	レ	ル	地	点
委	員	輸	送	任	務	ニ	服	務	ス	ル	候	指	令
右	諸	官	ノ	任	務	ニ	對	シ	テ	指	令	ヲ	得

海軍

S 1.1.1.0-34 199 0182

REEL No. A-0180

アジア歴史資料センター

秋

参同文
昭和七、四、一五、

四、一四後五、一〇著

陸軍次官宛

北平輔佐官

北平電

六〇六

顧維鈞夫人ト親交アル湯某ノ娘ノ誤
誑ニ依リハ顧ハ強カリ言ヒツク生命
ノ安全ニ関シ非常ニ心配シツクアリト

岡、天、情、上、ス

多
手
調
査
ス
ル

S 1.1.1.0-34

200

0183

REEL No. A-0180



アジア歴史資料センター

秘

参同文
昭和七、四、一六

四一五後八、四八著

陸軍次官宛
関東軍参謀長

関電 五九〇

外交總長謝介石ハ本十五日崩長春ニ於テ
内外老若ニ對シ左ノ要旨ノ如ク調査團
長「リットン」宛ノ電文ヲ祭表セリ
貴調査團ノ来滿ニ関シテハ滿腔ノ意ヲ
以テ歡迎スルノミナラス進ンテ貴團ノ
有セラル、重大使命向上ノ便宜ヲ供與
セント望ミ居ルモノナリ然レトモ吾人カ
曩ニ南京政府外交部ニ宛通電セル通り

貴團支那参兵員顧維鈞及其一行ノ我カ
境域ニ入ルヲ拒否セルハ我カ國內ニ於ケ
ル平和及秩序保全ヲ確保スル我カ主權
ニ基キ為サレタルニ過キサル事實ナルヲ
以テ貴下等ヨリ之ヲ承認セラレシコトヲ
希望ス

顧維鈞ト舊軍閥トノ關係ハ既知ノ如クナ
ルカ吾人ハ彼カ貴團ト共ニ入滿ノ機ヲ
捕ヘ今尚我國内ニ多数残存スル舊軍閥
等ト共同シ惡計ヲ計リツ、アリトノ教道
ヲ有スルモノナリ右ノ如キ事實ニ照ラシ貴
下ハ本問題ニ對シ我方ノ取リタル手段並
本件ニ對スル我強硬ナル態度ニ就テハ

清野
河本多夫

S 1.1.1.0-34

202

S 1.1.1.0-34

201

0184

REEL No. A-0180

0253

アジア歴史資料センター

御諒察アルコト、信ス然レト又萬一貴方ニ
於テ當方ノ容認シ得ヘキ参員ニ變更
アルニ於テハ當方ニテモ本件ヲ再考スル
ニ各イルモノニアラス (原文英語)

北天朝、ス、

S 1.1.1.0-34

203

0185

REEL No. A-0180

0185

アジア歴史資料センター

陸同文

電報

昭和七、四、一六

四、一五、四、三〇、四、二四、七、三〇

北平輔佐官

參謀次長宛

北平第六一四號(其一—三)

學良機関紙北平新報十四日社説ハ支那側ノ
顧維鈞問題ニ對スル態度ヲ示スモノナリ要旨
次ノ通り

顧維鈞ノ入滿拒絶ハ個人ニ非ス支那代表拒絶
ニシテ調査團ヲ拒絶スルコトナル、日本ノ真意ハ
調査團ヲシテ東北ノ真相ヲ知ラシメサルニ在リ。
即東北ノ民意カ新國家ヲ喜ハサルハ直ニ看破
シ得ル所ナルト共ニ軍事施設ヲ甚界リニ知ラセル
ハ日本軍部ノ最モ惧ルル所ナレハナリ

支那代表カ調査團ト共ニ聯盟ノ指示ヲ待チツ
フアル方法ハ(一)日支代表共全部入滿(二)日
支代表共全部入滿セズ(三)日支代表ヲ除キ
調査委員ノミ入滿ノ三ナリ
悉ルニ

(三)ニ依レハ東北ノ實情ハ日本軍ノ壓迫ニ依リ
真相ノ調査出來ス且委員團構成ノ法理ニ反
ス

(二)ハ調査團モ任務遂行不可能ニシテ日本ハ其責
任ヲ滿洲國ニ轉嫁スヘキカ故ニ聯盟カ制裁
カヲ發揮セサル以上採用スヘカラス
(一)ハ最モ合理的ノ方法ニシテ支那ノ主張セサル
ヘカラサル方法ナルモ之ニ對シ相當ノ準備ヲ必要

3 1.1.1.0-34

205

3 1.1.1.0-34

204

0186

トス。即ちソソ聯盟ニ對シ東北ト日本トノ秘
密關係ヲ訴ヘ全委員團保護ノ責任カ
日本ニ在ルコト。後テ某一人ニ對スル干涉ノミ
ナササルコト。並委員團調査ノ自由ヲ日本ニ
承認セシメ日本カ附屬地外ニ於ケル保護ノ
責任ニ任セサレハ日本軍ノ威力及ハサルモノト
認メ関内ヨリ派兵シテ保護スルノ準備ヲ
ナスヲ必要トス。其他入滿後支那代表ノ爲
関内トノ通信ノ自由確保ニ関シ豫メ準備
セサルヘカラス。

関内ス。

S 1.1.1.0-34

206

0187

電信寫

724
11.0.51-12-2

芳澤
百田

芳澤外務大臣

昭和7年

暗 北平 本省

四月十六日前着

亞 係

芳澤外務大臣

矢野參事官

第一八四號 (大至急、極秘)

百田ヨリ

第四二號

十五日午前十時委員會ハ本使ノ出席ヲ求メ出發期日及入滿經路ニ付テ相談アリタルニ付本使ハ政府ニ於テハ顧維鈞問題ニ關シ折角辦法ヲ講スル爲斡旋中ナルモ其結果ヲ待ツ時ハ相當ノ時日ヲ要スヘキヲ以テ調査委員(顧維鈞ヲ含ム)ハ寧ロ天津ヨリ海路大連ニ赴クコト適切ナルコト及人員收容上十九日又ハ二十日天津出帆ノ奉天丸(同

船ハ上海航路船ナルモ特ニ天津ニ差向クルコトニ大連汽船ト打合濟)ヲ取ルコト便ナルヘキ旨ヲ説キタルカ委員長ハ海路ハ手間取ルトテ拒絕セリ然ルニ長春、奉天發電報ニ依ルモ鐵道ニ依ル時ハ問題ノ起ルヘキコト想像ニ難カラサルヲ以テ本使ヨリ我軍ニ於テハ出來得ル限リ一行ノ保護ニ努ムヘキモ山海關ヨリ錦州ニ到ル間ニハ我軍隊駐屯セス何等事故ノ發生セサルヲ保シ難キコトヲ説明シ重ネテ海路ヲ取ルコトヲ獎メタルモ頑トシテ肯カス一應山海關迄北寧側列車ニテ赴キ同地ニテ山奉側列車ニ乗換ヘルコトトシテ山海關ヲ出發シ得ヘキ日時ヲ奉天ニ確ムルコトトシ同十時半辭去シタリ右會見後間モ無ク貴電第六九號ニ接シタルカ委員長會議中ノ爲會見スルヲ得サリシヲ以テ直ニ「ハリス」ニ貴電第七〇號御訓電ノ趣旨ヲ述ヘ委員長ニ

S 1.1.1.0-34 208

S 1.1.1.0-34 207

0188

REEL No. A-0180

傳達方申入レタル處偶々同人ノ手許ニ顧維鈞反對ノ滿洲國外交總長
謝介石發委員長宛電報（長春發貴大臣宛第一五一號ト同文）接到シ
居リタルカ同人ハ此事態ヲ無視シテ事ヲ決シ得サルヘク滿洲側ニ於
テハ聯盟委員ノ入滿ニハ歡迎シ居ル次第ナルヲ以テ陸路ヲ採リ「ア
セツサリ」等ハ船ニテ大連ニ赴クコトモ考ヘラル何レニスルモ我方
申入ノコトハ委員長ニ取次クヘキ旨述ヘタリ尙本使ヨリ委員側ニ於
テ海路ニ同意ナラハ目下青島ニ在ル驅逐艦ヲ天津邊ニ回航方依頼ノ
儀考慮中ナルコトヲモ述ヘ置キタリ
奉天ヨリ長春ヲ除ク必要ノ在滿領事ヘ又聯盟ヨリ英、佛、伊、獨ヘ
轉電アリタシ
奉天、長春、支、南京、天津、聯盟、米ニ轉電セリ

電信寫

7214
A110.21-12-2

敬
呈
閣
下

内務省
何
等
事

昭和

暗

北平
本省

四月十六日前着

亞

芳澤外務大臣

矢野参事官

第一八六號（大至急極秘）

吉田ヨリ第四三號

往電第四二號ニ關シ十五日午後六時半ヨリ委員會ト協議シタルカ委
員長ノ求メニ依リ北平宛貴電第六七號及第七〇號御回訓ノ趣旨ヲ披
露シタル上意見ノ交換ヲ爲シ委員長ハ尙陸路ヲ執ルコトニ傾キ居リ
タルモ結局今朝佐藤ヨリ海軍省宛請訓シタル艦遂艦使用方ニ關スル
回電ヲ待チ更ニ會合スルコトトナレリ

奉天ヨリ長春ヲ除ク必要ノ在滿領事へ又聯盟ヨリ英、佛、伊、獨へ

轉電アリ度シ

奉天、長春、支、南京、天津、聯盟、米ニ轉電セリ

S 1.1.1.0-34

211

S 1.1.1.0-34

210

0190

電信寫

7月
A.1.1.0.21-7

昭和7

平

本省

四月十六日後着

情

再

芳澤外務大臣

村井總領事

第五九六號

顧維鈞問題ニ關スル十六日「デーリー、ニュース」社説左ノ通り
顧維鈞「アツセサー」任命當時日本又ハ滿洲新政権力之ニ反對シタ
リトセハ右ハ顧ノ從來ノ經歷ニモ顧ミ理由アルモノト認メラレシナ
ルヘシ、然レトモ其ノ當時之ヲ默認シタル日本ハ今ヤ滿洲國ノ顧維
均入滿拒絕ニ面シ板挾ノ立場ニ陥レリ日本ハ「リットン」委員會ニ
依ル調査ニ同意シ居リ日本カ同委員會ノ是認ヲ其ノ國籍等ニ拘ハラ
ス保護シ得ルコトハ明瞭ナリ。要スルニ日本電部サヘ其ノ氣ナラハ

顧維鈞ノ安全ハ保障セラレ得ヘシ、吾等ハ初メハ本問題ハ滿洲國新
當局者ノ外面的ナル理由ヨリ申出テタル行動ト考ヘタルモ一方ニハ
「ルーター」カ支那「アツセサー」ニ對スル身体上ノ危險ノ脅迫ノ
報ヲ傳フルアリ他方壽府ニ於ケル日本側ノ所言モアリ、事態困難ト
ナリ來レルモノノ如シ、滿洲事件當初以來令名アリシ内田滿鐵總裁
カ陸軍省ノ反對ニモ拘ハラズ辭職ストノ不可解ナル報モアリ滿洲ノ
事態穩カナラサルヲ示セリ、此ノ時ニ當リ吾人ハ日本官憲カ委員會
ノ事業ヲ妨クルノ不利ナルヲ認識シ一行ノ安全ニ對スル不安ヲ速カ
ニ一掃センコトヲ希望ス
公使へ轉電シ北平、奉天、長春、南京へ轉電セリ

S 1.1.1.0-34

213

S 1.1.1.0-34

212

0191

秘

奉天
A.1.1.0-12-2

電信寫

昭和7

暗

北平
本省

四月十六日 着

亞、再
條

芳澤外務大臣

矢野參事官

第一八九號(大至急)

本官發奉天宛電報第二八號

吉田ヨリ

本日調査委員側ヨリ左ノ通申出ニ接シタリ

一、委員ハ支那側トノ間ニ浦口。北平間ニテ乗用セル列車ヲ「チャイ
ター」シ之ヲ奉天迄及同地滞在中使用シ得ル様取極ヲナセリ

二、北平。奉天間ノ旅行ニ付テハ委員團ノ一部並ニ日支兩國ノ參與委
員及隨員ハ海路大連經由ニ依リ又委員團ノ他ノ一部及書記局ハ山

海關經由列車ニ依ラシメタキ意嚮ヲ有ス

三、山海關以東ノ旅行及列車使用ノ細目ニ付テハ北寧側ト協議ノ結果
左ノ案ヲ提議ス

(イ) 山海關ニテ奉山側ノ機關車ト付換ヘルコト

(ロ) 山海關ニテ奉山側ノ乗務員(往電第二三號参照)ヲ乘込マシム
ルコト但シ北寧側乗務員ハ列車ニ留マリテ運轉上必要ナル「ア
ドバイス」ヲ與フルコト

(ハ) 「コツク」其他ノ使用人ハ依然列車ニ留マルコト

(ニ) 奉天滞在中ハ列車ヲ滿鐵驛内ニ留メ置クコト

四、委員ハ關係官憲ニ於テ列車及從業員ノ世話並ニ安全ヲ確保スル爲
必要ナル一切ノ措置ヲ講スルコトヲ期待ス

S 1.1.1.0-34

215

S 1.1.1.0-34

214

0192

我委員ハ滿洲ニ於ケル諸官黨ニ於テ以上ニ同意セララルヤ否ヤヲ大
至急承知シタシ

委員側ハ非常ニ出發ヲ急キ居ルニ付右委員側ノ申出ニ對スル關係方
面ノ意圖並ニ若シ右ニテ差支ナクハ何日當地ヲ出發セシメ然ルヘキ
ヤ大至急回電アリタシ

大臣ヨリ陸海軍大臣ニ轉報アリタシ

大臣、支、長春、聯盟、關東長官へ轉電セリ

S 11.1.0-34

216

0193

REEL No. A-0180

0262

アジア歴史資料センター

電信寫

本外
A110.21-12-2



秘

昭和7

暗

北平
本省 四月十七日 前着

亞、條

再

芳澤外務大臣

矢野参事官

第一九一號(大至急)

吉田ヨリ

第四四號

北平發奉天宛往電第二八號ニ關シ

右案ニテ繼リタル場合政府ニ於テ御異存ナキコトト存スルモ萬一然

ラサル場合ニハ大至急奉天宛電報ヲ請フ

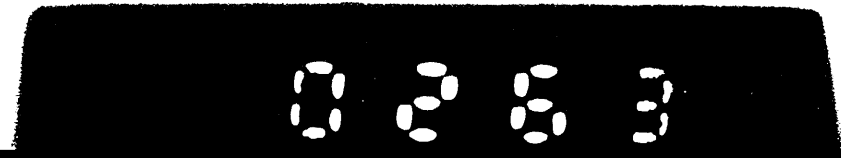
奉天。長春、支、聯盟へ轉電セリ

S 1.1.1.0-34

217

0194

REEL No. A-0180



アジア歴史資料センター

電信寫

柳田



回信の遅るべき

昭和7

暗

北平

本省

四月

日

條

芳澤外務大臣

矢野参事官

第一九二號(至急極秘)

吉田ヨリ

第四五號

鐵道附屬地外ノ視察ニハ日支双方ノ參與委員トモ聯盟委員ト同行セ
サルコト一案ナルカ右ノ如キコト問題トナリタル場合同意シ然ルヘ
キヤ至急復同電相成リタシ

尙滿洲ニテハ委員側ニ於テ參與員ナシニ支那語ヲ良クスル外國人ヲ
使用シ要人其ノ他ト會見スル模様ナリ
奉天、長春、支、聯盟局長へ轉電セリ

S 1.1.1.0-34

218

別 表 0195

情報部

秘

亞細亞局
滿鐵高第四三八一號ノ二

昭和七年四月十六日

第一課

昭和七年四月廿日 接交

關東廳 總務局長

拓務次官殿
内務次官殿
外務次官殿

國際聯盟調查員來滿ト顧維鈞入滿
拒絕ニ對スル中國知名士ノ感想

今回國際聯盟調查員ト同伴スル國民政府代表者顧維鈞ノ滿洲國入國
拒絕ニ就テ大連在住中國知名士等ノ感想ヲ綜合スルニ左ノ如シ
一國際聯盟調查員一行ハ今回日支ノ紛糾ヲ解決スヘキ重大使命ヲ帶

ビ將ニ來滿セントシ一發民衆ハ一日モ早ク解決ヲ期待シ居ルモノナ
ルカ國民政府ヨリ顧維鈞ヲ聯盟調查員ノ一行トシテ同伴セントスル
ニ際シ滿洲國政府ヨリ顧維鈞ノ滿洲國入國ヲ拒絕シタルハ之レ當然
ナリト認メ其ノ理由トシテハ滿洲參千萬民衆ノ希望ニ依リ舊軍閥ヲ
驅逐シ樂土タル新國家ヲ建設シタルカ萬一顧維鈞來滿ニ際シ暗ニ之
ヲ破壞スル運動ノ手段ニ出ツルヤモ難計ク世界各國ハ未タ滿洲國ヲ
承認セサルモ顧維鈞ノ入國拒絕スルハ正當ナリ云々ト

以上

S 1.1.1.0-34

220

0197

S 1.1.1.0-34

219

28/4

0196

Handwritten notes and signatures in the right margin.

電信案

外務省

S 1.1.1.0-34

222

0199

夕リ
 別電と共ニ南島ニ封報アリタシ
 轉報セシメタリ
 研直ニ封報シテ研直ヲレテ英併、伊、独ニ
 別電ト共ニ北平、青島、長春ニ封報シ、

(原議用紙乙)

送第 8186 號
 7年4月16日 10時40

電信案

外務省

S 1.1.1.0-34

221

件 顧維鈞入滿以飲茶部他抽派件
 在支
 重光公使
 發 芳沢大臣
 第二十九號
 願維鈞入滿以飲茶部他抽派件
 支所公使依覺書ヲ以テ別電分ニ送ル
 一函ニ申越シテ分十六日附覺書ヲ以テ
 要旨別電分ニ送一
 年ノ通リ回答ノ應キ

電信課長

電信案

(原議用紙甲) 團納

0198

電送第 8178 号

昭和7年4月16日 10時40分

電 信 案	ハス該偽組織ノ一切ノ非法表決ハ當然日本ニ於テ責任ヲ負フベキモ		府等ヲ造リ及中國人民ヲシテ之ニ参加セシムルコトハ絶対承認シ能	府ハ累次嚴重抗議シ日本軍撤退前該地方ニ於テ所謂獨立或ハ自主政	日本政府力武力ヲ以テ東省偽組織ヲ造リ傀儡ト爲セルニ對シ中國政	宛 重光公侯	件 解連釣入高揮復制銀主制括議付	主 任 長 官 重光公侯	(起草大正七年四月十日)	電信課長
-------------	--------------------------------	--	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	-----------	---------------------	--------------------------	--------------	------

S 1.1.1.0-34

224

0201

電送第 8187 8191 号

昭和7年4月16日 10時40分

電 信 案	本方局長支支公侯記電報ヲ三四九ノ		在在重光公侯代候	在在重光公侯代候	在在重光公侯代候	件 解連釣入高揮復制銀主制括議付	主 任 長 官 重光公侯	(起草大正七年四月十日)	電信課長
-------------	------------------	--	----------	----------	----------	---------------------	--------------------------	--------------	------

S 1.1.1.0-34

223

0200

第 8179 8188
7 - 4月16日 舊 10月30

電信課長
主任
件 顧維鈞入滿拒他領支即拒抗議件
宛 在長春田代領支
在野村 拒領支
在青島 拒領支
在青島 拒領支
本大臣表 在支公使館電報
件 拒領支
件 拒領支
件 拒領支
件 拒領支

S 1.1.1.0 -34 226 0203

電信課長
主任
件 顧維鈞入滿拒他領支即拒抗議件
宛 在長春田代領支
在野村 拒領支
在青島 拒領支
在青島 拒領支
本大臣表 在支公使館電報
件 拒領支
件 拒領支
件 拒領支
件 拒領支

S 1.1.1.0 -34 225 0202

電信課長

電信案

(原議用紙甲) 團納

0204

主管 任 正 年 四 月 十 六 日

件

解野の入滿の件

宛

在 主 書 光 公 使 發 芥 沢 大 臣

平 野 二 五 一 號

該覺書ニ於テ中國側ハ滿洲政府ノ成立及其ノ行動ヲ帝國政府ノ責任

ニ歸セントスル從來ノ主張ヲ反覆シ此ノ前提ニ基キ種々論議セラレ

居ル處帝國政府カ右ニ付何等責任ヲ負フヘキ理由ナキコトハ三月十

九日附芳澤大臣書翰(往電第二〇〇號)等ニ於テ委細説明セラレ居

電信案

外務省

S 1.1.1.0-34

227

電送第 8172 號 7年4月16日 10時/0

(原議用紙乙)

0205

ル前提ニ基キ本件カ帝國ノ主動ニ依ルモノナルヤニ獨斷シ又願氏等	ノ滿洲ニ於ケル職務執行ニ當リ障礙又ハ意外ノ事件發生スル場合帝	電 信 案	外 務 省
所ニ非サルコト一點ノ疑ナキニ拘ラス該覺書ニ於テ又々上述ノ誤レ	ク中國政府ト滿洲政府トノ間ノ問題ニシテ何等帝國ノ責ニ歸スヘキ		
サル所ナリ今回滿洲政府カ願維鈞氏ノ入滿拒否ヲ表明セル如キモ全	ノ責任ヲ云々セラレムトスル態度ハ帝國トシテ嚴重抗議セサルヲ得		
ル通りニシテ右ニ拘ラス中國側ニ於テ事毎ニ滿洲政府ニ關スル帝國			

S 1.1.1.0-34

228

電送第 8173 8174
 7年 10月16日 10時30分

電信課長
 主任 菅野 7
 (起草 1917年 10月16日)
 (原議用紙甲) 圓納

件 飲雄 釣入 満月 飲之 却 創 拉 議 件
 古 地 平 矢 野 参 考 友 古 奉 夫 再 島 行 理
 宛 在 長 春 春 田 代 領 事 發 芬 沢 七 月
 平 帶 第 一 七 七 號 在 未 出 回 大 使

本 方 乃 茲 古 文 公 使 宛 電 報 亦 二 五 一 号

一 封 封 宛 三 封 封 年 任 三 封 封 下 附

電 信 案 記 一 封

外 務 省

S 1.1.1.0-34 230

0207

電信案

外務省

國政府カ一切ノ責任ヲ負フヘキモノト爲セルコトハ帝國政府ノ斷シ
 テ容認シ得サル所ナリ

更ニ帝國政府ニ於テ客年十二月十日理事會決議ヲ尊重スルモノナル
 コトハ固ヨリ言ヲ俟タサル所ニシテ上述帝國ノ立場ハ何等此ノ方針
 ト矛盾スルモノニ非サルコトヲ茲ニ言明ス

(原議用紙乙)

S 1.1.1.0-34 229

0206



原書頁ノ110.
21-31.

亞一普通第二八號

昭和七年四月十六日

外務省

在本邦
中華民國公使館

聯盟支那調查顧問維鈞入滿問題

帝國外務省ハ顧維鈞氏ノ入滿問題ニ關スル民國二十一年四月十二日
附在本邦中華民國公使館覺書申字第一一三號ヲ閱悉シタリ
該覺書ニ於テ中國側ハ滿洲政府ノ成立及其ノ行動ヲ帝國政府ノ責任
ニ歸セントスル從來ノ主張ヲ反覆シ此ノ前提ニ基キ種々論議セラレ
居ル處帝國政府力右ニ付何等責任ヲ負フヘキ理由ナキコトハ昭和七
年三月十九日附芳澤外務大臣發江臨時代理公使宛書翰亞一普通第二
二號等ニ於テ委細説明セラレ居ル通りニシテ右ニ拘ラス中國側ニ於
テ事毎ニ滿洲政府ニ關スル帝國ノ責任ヲ云々セラレムトスル態度ハ

外務省

10.4
S 1.1.1.0-34

231

0208

帝國トシテ嚴重抗議セサルヲ得サル所ナリ今回滿洲政府力顧維鈞氏
ノ入滿拒否ヲ表明セル如キモ全ク中國政府ト滿洲政府トノ間ノ問題
ニシテ何等帝國ノ責ニ歸スヘキ所ニ非サルコト一點ノ疑ナキニ拘ラ
ス該覺書ニ於テ又々上述ノ誤レル前提ニ基キ本件力帝國ノ主動ニ依
ルモノナルヤニ獨斷シ又顧氏等ノ滿洲ニ於ケル職務執行ニ當リ障
碍又ハ意外ノ事件發生スル場合帝國政府力一切ノ責任ヲ負フヘキモノ
ト爲セルコトハ帝國政府ノ斷シテ容認シ得サル所ナリ
更ニ帝國政府ニ於テ客年十二月十日理事會決議ヲ尊重スルモノナル
コトハ固ヨリ言ヲ俟タサル所ニシテ上述帝國ノ立場ハ何等此ノ方針
ト矛盾スルモノニ非サルコトヲ茲ニ言明ス

外務省

10.7
S 1.1.1.0-34

232

0209

REEL No. A-0180

アジア歴史資料センター

字

未定宛書
要旨改書及
支那方面
轉電信

公 信 案

文書課長

文書課發送

主 任 主
普通第二八

（起草大正 年 月 日）

淨書 正（原稿）

（淨書）

（甲號用紙）

正

昭和七年四月十六日附

附屬書 通

受 信 在 本 邦

人 名 中 華 民 國 公 使 館

外 務 省

件 名 研 究 支 那 通 商 館 維 納 入 滿 洲 航 路

名 込

帝國外務省ハ顧維鈞氏ノ入滿問題ニ關スル民國二十一年四月十二日

附在本邦中華民國公使館覺書申字第一一三號ヲ閱悉シタリ

該覺書ニ於テ中國側ハ滿洲政府ノ成立及其ノ行動ヲ帝國政府ノ責任

公 信 案

外 務 省

0211

S 1.1.1.0 -34

233

0210

公 信 案	外 務 省	ノ入滿拒否ヲ表明セル如キモ全ク中國政府ト滿洲政府トノ間ノ問題	帝國トシテ嚴重抗議セサルヲ得サル所ナリ今回滿洲政府力顧維鈞氏	テ事毎ニ滿洲政府ニ關スル帝國ノ責任ヲ云々セラレムトスル態度ハ	二號等ニ於テ委細説明セラレ居ル通りニシテ右ニ拘ラス中國側ニ於	年三月十九日附芳澤外務大臣發江臨時代理公使宛書翰亞一普通第二	居ル處帝國政府力右ニ付何等責任ヲ負フヘキ理由ナキコトハ昭和七	ニ歸セントスル從來ノ主張ヲ反撥シ此ノ前提ニ基キ種々論議セラレ
-------	-------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

S 1.1.1.0 -34

234

REEL No. A-0180

アジア歴史資料センター

公 信 案	外 務 省	スルモノニ非サルコトヲ茲ニ言明ス

S 1.1.1.0-34

236

0213

公 信 案	外 務 省	ニシテ何等帝國ノ責ニ歸スヘキ所ニ非サルコト一點ノ疑ナキニ拘ラ
		ス該覺書ニ於テ又々上述ノ誤レル前提ニ基キ本件カ帝國ノ主動ニ依
		ルモノナルヤニ獨斷シ又顧氏等ノ滿洲ニ於ケル職務執行ニ當リ障礙
		又ハ意外ノ事件發生スル場合帝國政府カ一切ノ責任ヲ負フヘキモノ
		ト爲セルコトハ帝國政府ノ斷シテ容認シ得サル所ナリ
		更ニ帝國政府ニ於テ 察屋十二月五號 決議ヲ尊重スルモノナルコトハ
		固ヨリ言ヲ俟タサル所ニシテ上述帝國ノ立場ハ何等此ノ方針ト矛盾

S 1.1.1.0-34

235

0212

願維鈞入滿問題ニ關スル件

昭和七年四月十二日在本邦支那國臨時代理公使江華本氏谷亞細亞局長ヲ來訪シ本件ニ關スル別紙同日附申字第一一三號節略ノ趣ヲ述ヘ且之ヲ手交シタリ
右ニ對シ谷局長ヨリ

日本方面ノ消息ト謂ハルル何レノ方面ヲ指スモノナリヤ又支那側ニテハ正確ノ報道ヲ有セラレサル次第ナリヤ我方トシテハ假ニ本件カ事實トスルモ右節略ノ如キ支那側言分ハ到底容認スルコトヲ得ス蓋シ滿洲新國家ニ關シ日本カ何等責任ヲ取ルヘキ理由ナキコトハ曩ニ公文ヲ以テ篤ト説明シタル通りニシテ茲ニ反覆ノ要モナク新國家カ願氏ノ入滿ヲ拒絕シタリトスルモ右ハ全然支那ト新國家トノ間ニ問題ニシテ何等日本ノ責任ニ非ス從來支那側ハ事度ニ新國家ニ關シ日本ノ責任ヲ云爲セラレ居ル處右ハ我方トシテ嚴重抗議セサルヲ得サル次第ニシテ今回ノ御申出モ同様誤レル前提

外務省

10.7

S 1.1.1.0-34

237

0214

ニ基キ日本ノ責任ヲ問ハレ居ルモノニシテ到底容認シ難ク此ノ點大臣ノ命ニ依リ明言ス

ト述ヘタルニ江代理公使ハ

滿洲ニ日本軍駐屯セル結果爲政府モ成立シ今回ノ謝介石ノ電報ノ如キモ發セラルルニ至レルモノ故右ハ日本ノ責任ナリ

ト述ヘタルヲ以テ谷局長ヨリ

日本軍ノ駐屯理由ニ付テハ日本ハ既ニ世界ニ對シ充分説明ヲ盡シアリ如何ナル意味ニ於テモ上述ノ如キ責任ヲ日本ニ歸スヘキ理由ナシト應シ更ニ江代理公使ハ

若シ願維鈞一行カ職務執行ノ妨害ヲ受クル如キコトアライ日本ハ聯盟ノ決議ヲ破壞スルコトトナルヘシ

ト述ヘタルニ對シ

日本ハ聯盟ノ決議ハ飽迄尊重スルモノナルモ新國家ノ願維鈞入滿拒絕ノ責任問題ハ之トハ別個ノモノナリ

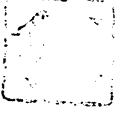
外務省

10.7

S 1.1.1.0-34

238

0215



ト答へ置キタルカ江代理公使ハ本件節略ニ對シ同様節略ニ依ル回答ヲ希望シタリ

(昭和七年四月十二日谷亞細亞局長口述筆記)

外務省

10.7 S 1.1.1.0-34 239 0216

顧維鈞入滿問題ニ關スル件

昭和七年四月十二日在本邦支那國臨時代理公使江華本氏谷亞細亞局長ヲ來訪シ本件ニ關スル別紙同日附申字第一一三號節略ノ趣旨ヲ述へ且之ヲ手交シタリ

右ニ對シ谷局長ヨリ

日本方面ノ消息ト謂ハルルハ何レノ方面ヲ指スモノナリヤ又支那側ニテハ正確ノ報道ヲ有セラレサル次第ナリヤ我方トシテハ假ニ本件カ事實トスルモ右節略ノ如キ支那側言分ハ到底容認スルコトヲ得ス蓋シ滿洲新國家ニ關シ日本カ何等責任ヲ取ルヘキ理由ナキコトハ鑿ニ公文ヲ以テ篤ト説明シタル通りニシテ茲ニ反覆ノ要モナク新國家カ顧氏ノ入滿ヲ拒絕シタリトスルモ右ハ全然支那ト新

外務省

7.2 S 1.1.1.0-34 240 0217



國家トノ間ノ問題ニシテ何等日本ノ關^{責任}ハ非ス從來支那側ハ
事毎ニ新國家ニ關シ日本ノ責任ヲ云爲セラレ居ル處右ハ我方トシ
テ嚴重抗議セサルヲ得サル次第ニシテ今回ノ御申出モ同様誤レル
前提ニ基キ日本ノ責任ヲ問ハレ居ルモノニシテ到底容認シ難ク此
ノ點大臣ノ命ニ依リ明言ス

ト述ヘタルニ江代理公使ハ

滿洲ニ日本軍駐屯セル結果偽政府モ成立シ今回ノ謝介石ノ電報ノ
如キモ發セラルルニ至レルモノ故右ハ日本ノ責任ナリ

ト述ヘタルヲ以テ谷局長ヨリ

日本軍ノ駐屯^{理由}ニ付テハ日本ハ既ニ世界ニ對シ充分説明ヲ盡シ
如何ナル意味ニ於テモ上述ノ如キ責任ヲ日本ニ歸スヘキ理由ナシ

は()

7.2

S 1.1.1.0-34

241

0218

外務省

ト應シ更ニ江代理公使ハ

若シ願維鈞一行カ職務執行ノ妨害ヲ受クル如キコトアラハ日本ハ
聯盟ノ決議ヲ破壞スルコトトナルヘシ

ト述ヘタルニ對シ

日本ハ聯盟ノ決議ハ飽迄尊重スルモノナルモ新國家ノ願維鈞入滿
拒絕ノ責任問題ハ之トハ別個ノモノナリ

ト答ヘ置キタルカ江代理公使ハ本件節略ニ對シ同様節略ニ依ル回答
ヲ希望シタリ

(昭和七年四月十二日谷亞細亞局長口述筆記)

は()

7.2

S 1.1.1.0-34

242

0219

外務省

(譯文) 申字第一一三號

覺書

近日日本方面ヨリ傳ヘラルル消息ニ依レバ東省傀儡偽政府ハ國際聯盟調査委員參與員中國代表及其隨員等ノ東省ニ至リ調査スルコトヲ阻止セントスル異謀アリトノコトナリシガ今回本國外交部來電ニ接シ叛逆謝介石ガ果シテ已ニ宣傳セラルルガ如キ電文ヲ發シタルコトヲ知レリ、査スルニ日本政府ハ其ノ武力ヲ以テ東省偽組織ヲ造成シ以テ其ノ傀儡ト爲セリ、中國政府ハ既ニ迭々嚴重抗議シ該地方ニ在ル日軍撤退前ニ於テハ中國政府ハ該地方ニ於テ獨立ヲ維持スルハ自由政府等ノ舉動及中國人民ニ令シテ此ノ種傀儡ノ組織ニ參加セシムルコトハ絕對承認シ能ハス所有該偽組織ノ一切ノ非法表決ハ當

外務省

は()

7.2 S 1.1.1.0-34

243

0220

然日本ニ於テ責任ヲ負フベキモノナルコト聲明セル處ナルガ今回國際聯盟調査員及該參與員中國代表顧維鈞等ガ東省ニ赴キ調査セント

セバ即チ叛逆謝介石ガ竟ニ荒謬ノ電文ヲ發シタルハ中國政府ハ此ノ種行爲ハ日本側ノ主動ニ係ルモノト認メ特ニ嚴重抗議ヲ提出スルト共ニ國際聯盟調査委員及中國代表ガ東省ニ赴キ其ノ職務行使ニ當リ萬一障礙或ハ意外ノ事件發生スルアラバ日本政府ハ當然一切ノ責任ヲ負フベキモノニシテ日本政府ハ當然國際聯盟客年十二月十日決議案ヲ破壞スルノ責任ヲ負フベキモノナルコトハ自ラ言ヲ待タザルモノナルコトヲ茲ニ鄭重ニ聲明ス

中華民國二十一年四月十二日

(中華民國駐日本國公使館印)

外務省

は()

7.2 S 1.1.1.0-34

244

0221

秘

電信寫

昭和7

暗

奉天
本省

四月十七日後着

森島總領事代理

再 亞

第

芳澤外務大臣

第五九六號ノ一

本官發北平宛電報

第八八號ノ一

吉田大使へ

北平發本官宛電報第二八號ニ關シ

滿洲國側ニ對シテハ電話ニテ當地軍並當館ヨリ協議セルモ其意見甚

ク強硬ナルカ如ク目下長春ニテ關係各部門ニ打合中ナルカ當地奉山

滿鐵其他ト協議セル結果不取敢左ノ通

S 1.1.1.0-34

245

0222

REEL No. A-0180

0278

アジア歴史資料センター

- (一) 滿洲各地視察ノ爲津浦線特別列車ヲ使用スル事ハ當地滿鐵其他ニ於テ既ニ特別列車ノ準備ヲ整ヘタルコトニモアリ同意スルヲ得ス
- (二) 委員團ノ一部及書記局カ陸路來滿スルコトハ何等異存ナシ(少ク
トモ支那側參與員及其隨員ハ大連經由ノ事ト了解ス)
- (三) 山海關以東ニ支那側列車引込ノ問題ニ付テハ元來他線ノ車輛ヲ使用スル場合ニハ技術上事前ニ充分細目ノ打合ヲ遂クルニ非サレハ運行ノ安全ヲ保障シ得サルモノナル處茲ニ奉山側ヨリ北寧側ニ對シ此點ニ關シ協議ヲ求メタルニ對シ北寧ハ何等相談ニ應セザリシノミナラス(少ク)

S 1.1.1.0-34

246

秘

昭和7

暗

奉天
本省

四月十七 後着

森二總領事代理

芳澤外務大臣

第五九六號ノ二

本官發北平宛電報

第八八號ノ二

右申込ヲ受領セル旨ノ回答サヘモナシ居ラス（北平宛往電第八五號参照）奉山ハ已ムナク特別列車ノ準備一切ヲ整ヘ十五日早朝當地ヲ出發セシメタルカ其後北平來電第二四號接到シタルニ付右列車ハ錦州ニ於テ待機シ居レリ（食堂車ノミハ食料品買入レノ爲歸奉セリ）右様ノ事情經緯モアリ兩鐵道技術者間ニ事前ノ協議モナク津浦線列

電信寫

車ヲ關外ニ乗入ルコトハ不可能ナリ

尙當地奉山側ヨリ特別列車ヲ山海關迄差廻ハスニハ北平出發四十八時間以前ニ通知ヲ受クルニ非サレハ諸般ノ準備ヲ整ヘ乗ヌル由ナリ從テ若シ委員カ二十日ニ北平出發（週クモ第一百一列車）スヘキコトカ十八日午後六時頃迄ニ當方ニ判明スレハ二十日夕刻迄ニ列車ヲ山海關ニ差廻シ二十一日朝同地ヲ出發スル様手配スルヲ得可シ（山海關出發ノ時間カ朝八時頃ナルヲ要スルハ往電ノ通）大臣、支、長春ニ轉電セリ

3 1.1.1.0-34

248

6 1.1.1.0-34

247

0223

電信寫

破字同

1/10/17

0224

昭和7

暗

奉天 本省 四月十七日後着

亞

芳澤外務大臣

森島總領事代理

第五九七號 (至急、極秘)

本官發北平宛電報第八九號

往電第八八號ニ關シ

吉田大使

北平發本官宛電報第二八號ノ(一)ハ委員側ニ於テ同列車ヲ滿鐵沿線旅行等ニモ使用セントノ意味ナルニ於テハ冒頭往電(一)滿鐵側ノ意向ハ尤ノ次第ニシテ右ハ滿鐵ノ權威ニ關スル問題ナルノミナラス滿鐵側ハ既ニ特別列車ヲ準備シ居ル關係ヨリ云フモ本官トシテハ本件幹旋

方不可能ト思考シ居ル處軍部ニテモ本官ト同様ノ所見ニ付右ノ點爲念委員側ニ御確メ相願ヒ度ク尙滿洲國側ニ於テハ國內ノ治安紊亂ノ懸念ヨリ顧維鈞入滿反對ノ決意甚タ強ク其ノ租借地及附屬地内立入ニ付キテモ日本政府ニ阻止方意志表示ヲナシタリトノ聞込モアリ旁北平發大臣宛電報第一九二號附屬地外視察ノ際ニハ日支双方參與員及隨員ノ同伴取止メラレル方賢明ナルヤニ思考セラレ大臣、公使、長春、聯盟ニ轉電セリ

S 1.1.1.0-34

250

S 1.1.1.0-34

249

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人事

文書

會計

寫送先

分類A. 1.1.0.24-12-2-1

昭和7 九四六七 暗奉天 本省

四月十七日後發 亞、條

芳澤外務大臣

森島總領事代理

第五九八號（至急、極秘）

本官發北平宛電報

第九〇號

吉田大使へ

北平發本官宛電報第二八號ニ關シ

聯盟調査員入滿ノ件ニ關シテハ屢次往電ノ通り軍部ニ於テハ大體傍觀主義ヲ執リ居ルノミナラス元來顧維鈞入滿拒絕ハ滿洲國外交部ノ「イニシアチーブ」ニ出テ今後ノ展開如何モ主トシテ外交部側ノ意

外務省

S 1.1.1.0-34

251

0225

0226

嚮ニ左右セラルル處大ナリト認メラル本官トシテハ勿論軍側ト協力

シ折角斡旋中ナルモ本件ニ關スル電報ハ今後直接長春領事館宛御發

電相成方好都合ニシテ若シ御同意ナルニ於テハ大橋司長宛トシテ御

打電相成方問題ノ圓滑ナル處理ヲ得ル所以カト察セラル

尙冒頭貴電ハ當館ニハ十六日夜接到セルモ長春ニハ十七日午後六時

ニ至ルモ到着シ居ラス當館ヨリ便宜電話傳達シ置ケル實情ニ付長春

宛電報ハ當館經由トセラルル方迅速ト認メラル僭越乍ラ内部ノ機微

ナル關係モアリ早見御參考迄

大臣ニ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0-34

252

REEL No. A-0180

秘

電信寫

本紙
A11921-122

昭和7

暗

北平

本省 四月十七日前着

亞。條

再

芳澤外務大臣

矢野參事官

第一九〇號

本官發奉天宛電報

第二九號

伊藤ヨリ齋藤博士へ左ノ通

往電第二八號旅程ハ小官ヨリ累次電報セシ通りノ聯盟委員側ノ意向ニ對シ參與員側ヨリ數回交渉ノ結果幾多ノ曲折ヲ經委員側ヨリ提議シ來レルモノニテ此上争へハ理事會ニ照會シ滿洲問題全般ニ亘ル討議ヲ開始スルコトトナル如キ情勢ニ付此邊ニテ折合フコト適當カト

思考セラル右事情軍側並ニ新國家側ニ御説明ノ上承諾方御盡力願ヒ
タシ

委員連中間ノ空氣（此點口頭ニテ申上クヘシ）ニモ願ミ至急返電發
送アル様御奔走ヲ煩ハシタシ

大臣、支、長春、聯盟へ轉電セリ

S 1.1.1.0-34

254

S 1.1.1.0-34

253

0227

REEL No. A-0180

0227

アジア歴史資料センター

編者附言
原書ハ
日清協約及附
屬協約締結一件
日清秘密協定公表系
係ニ在リ

寫

分類 1.1.0-21-24

昭和7 九四八六 略 南京 十七日後發
本省 四月十八日前着

芳澤外務大臣 上村總領事代理

第三三二號ノ一

十七日ノ各新聞ハ十六日亞洲司長沈觀鼎カ外交部長ニ代リ新聞記者
連ニ爲セル談話ナルモノヲ掲載セルカ其ノ要領左ノ通り御參考迄
(一)滿鐵並行線問題ニ關シ藝ニ路透カ羅部長ノ談話トシテ報道セルモ
ノハ實際ノ談話ト頗ル一致セサル點アリ所謂並行線ナルモノハ一九
〇五年日支會議ニ於ケル東三省ニ關スル條約ノ附屬文書以外ノ會議
録ニ記載シアリ日本側ノ發表ニ懸ル密約ナルモノハ該會議録ノ原文
ト多少ノ相違アリ該原文ニハ「支那政府ハ東三省ニ於ケル鐵道ノ利

外務省

海子表
顧維鈞ノ攝
はじ

7.4 S 1.1.1.0-34 255 0228

益ヲ維持スル爲該鐵道ノ回收前其附近ニ並行幹線及該鐵道ノ利益ヲ
害スル支線ヲ敷設セサル事ヲ承諾ス一トアリ右聲明ハ前記會議録中
ニ記載シアルモ條約中ニ加ヘラレ居ラス從テ自ラ條約上ノ效力ヲ有
セス日本側カ並行線ナリトテ反對セル打通線ハ滿鐵ヲ去ルコト百哩
以上ニシテ其方向モ完全ニ併行シ居ラス東京帝大横田博士ノ如キモ
打通線ハ滿鐵ノ並行線ト云フ能ハスト論セリ若シ打通線ヲ滿鐵ノ並
行線ト云ハンカ東海道線ト中央線トハ併行ナリト云ヒ得可シ又統計
ニ依レハ滿鐵ノ收入ハ打通線ノ爲ニ減少シ居ラス近年滿鐵ノ收入減
少セルハ其經營方法カ甚タ官僚式ナルト金價高騰ノ影響ニ依ルモノ
トス支那カ自國領土内ニ鐵道ヲ敷設スルニ對シ外國人ハ之ニ關與ス
ルヲ得ス殊ニ東北ノ如キ廣大ナル土地ニアリテハ滿鐵ノ外ニ數條ノ

外務省

7.4 S 1.1.1.0-34 256 0229

鐵道ヲ敷設スルモ多シト云フヘカラス (續ク)

は七

外務省

7.4 S 1.1.1.0-34

257

0230

昭和7 九四八五 略 南京 十七日後發
本省 四月十八日前着

芳澤外務大臣 上村總領事代理

第三三二號ノ二

(二)停戰會議ハ日本側カ討議ノ範圍ヲ越ヘタル爲停頓セルカ我方ハ之ヲ以テ會議ノ決裂トハ目セス引續キ小委員會會議ヲ開キタルカ最近又復日本代表ヨリ範圍外ノ問題ヲ提起セル爲小委員會會議モ亦延期トナレルモノニテ我方ニハ當然責任ナシ日本政府ハ聯盟特別委員會ニ參加セサル様日本代表ニ訓令セル趣ナルカ右カ果シテ事實ナラハ日本ハ聯盟ノ一員タルコトヲ欲セサル意思表示ヲ爲セルニ止マラス今後自ラ國際的ニ孤立スヘシ此種意思表示ハ同國カ聯

は七

0231

7.4 S 1.1.1.0-34

258

外務省

寫送先

大臣
電信課長
次官
亞細亞
歐米
通商
條約
情報
人文
文書
會計

(分類A.1.1.0.2-12-2-1)

総務省
内務省
一六〇号
ト控

外務省

S 1.1.1.0-34

260

0233

昭和7 九四七四 暗
長春 十七日後發
本省 四月十七日後着
亞
芳澤外務大臣
第一五九號
田代領事
願維鈞入滿ニ關シ謝介石ヨリ閣下宛本月十七日附公文ヲ當館經由送付方依頼シ來レルカ右公文別電第一六〇號ノ通電文郵送ス

記録件

滿洲國政府與日本關係
滿洲國政府與日本關係
滿洲國政府與日本關係
滿洲國政府與日本關係
滿洲國政府與日本關係

外務省

S 1.1.1.0-34

259

0232

盟ヲ脫退セントスル議論ト同様ナリ日本カ若シ聯盟ヲ脫退センカ「ヤツブ」島ノ委任統治權モ聯盟ニ返還スル必要アル處日本ハ容易ニ之ヲ肯セサルヘク要スルニ聯盟脫退說モ一種ノ掛聲ニ過キサ
ルヘシ
（三）願維鈞入滿拒絶問題ニ關シ日本側ハ若シ調査團カ滿鐵沿線ヲ視察スルニ於テハ保護ノ責ヲ負フヘキ旨非公式ニ表示セル趣ナルカ調査團ハ何處ヘ行クモ勝手ニシテ何レノ方面ヨリモ拘束ヲ受クヘキニ非ス東北ハ支那領土ノ一部ナルヲ以テ我政府ハ或ハ相當ノ軍隊ヲ隨行セシメ調査團保護ノ責ニ任スヘク目下慎重考慮中ナリ
支、北平、奉天、長春へ轉電セリ

電信寫

昭和7

暗

北平
本省

四月十八日前着

郵

勞澤外務大臣

矢野參事官

第一九五號ノ一(至急極秘)

吉田ヨリ

第四七號

伊藤ヨリ

上海以來ノ情報ヲ綜合スルニ聯盟調査員中佛國委員ハ常ニ我方ニ有利ナル態度ヲ有シ(原田ノ情報ニ依レハ支那側モ右ヲ承知シ居レリト)伊國委員ハ時々親日態度ヲ表示スルニ反シ米國委員ハ多クノ場合我方ノ政策ヲ批評シ英國委員ハ公平ノ態度ニ出テント努メ居レリ

「ペバン」ノ旅行中得タル情報ニ依レハ漢口ニ於テ同地在留英國人ヨリ支那側カ不當ニシテ日本ノ態度ノ致シ方無カリシ旨ヲ「リットン」卿ニ陳述セル爲同卿ハ鮮カラス之ニ勸メサレ居ル様子ニテ北平着迄ハ米國ヲ除キ委員連ハ大體我方ニ有利ナル形勢ナリシト言フ然ルニ顧維鈞問題生シテ以來各委員ハ我方ニ對シ鮮カラス「イリテイト」シ居ルコト事實ニシテ往電第一七二號ノ通小官ヨリ滿洲國ノ存在ヲ説明シタルニ對シ「リットン」卿カ頗ル不満足ノ意ヲ表示シタルハ書記局ニテモ注意セラレ居ルコトハ(續)

S 1.1.1.0-34

262

S 1.1.1.0-34

261

0234

電信寫

昭和7

暗 北平
本省

四月十八日 後着

亞

芳澤外務大臣

矢野参事官

第一九五號ノ二(至急極秘)

「ハース」ヨリ内話アリタル程ニテ委員連中ハ滿洲方面ヨリ並ニ當地ニテ得タル情報ニ依リ滿洲國ハ日本軍ノ「インベンション」ニシテ日本軍滿洲ヲ退去スレハ同國ハ消滅スヘシトノ信念ヲ有シ右ヲ反駁スルモ之ヲ信セシムルコト頗ル難事ナルヘシトハ我方ニ好意ヲ有スル一委員ヨリ注意アリタル位ナリ

右様ノ次第ニテ滿洲ニテハ滿洲國官憲ハ之ヲ認メス唯個人トシテ取ヲナス如キ措置ニ出ツヘク且長春ヨリ先ハ願參與員ノ旅行ニシ

委員會ハ日本政府ニ對シ其ノ軍隊ノ保護ヲ求ムヘク若シ軍隊其保護ヲ與ヘサルニ於テハ日本軍ハ日本政府ノ命令ニ服從セサルコトヲ立證スルコトトナリ尙更滿洲國カ軍隊ノ力ニテ出來タルコトヲ明瞭ナラシムルモノナリト報告セント欲スル委員多岐ナル由日本ニ好意ヲ有スル一委員ヨリ内報アリタリ

之等ノ點ハ委員入滿後直ニ實際問題トナルヘキニ付心得置クヘキ點至急御訓電ヲ請ノ

奉天ニ轉電シ長春ニ轉電セシム

聯盟ヨリ英、米、獨、伊、露ニ轉電セシム

公使、南京、聯盟ニ轉電セリ

S 1.1.1.0-34

264

S 1.1.1.0-34

263

0235

電信課長
大臣
次官
亞細亞
歐米
通商
條約
情報
文化
人事
文書
會計

寫送先

分類 A 1.1.0.24-12-2-1

昭和7 九五三一 暗
北平 十八日後發
本省 四月十八日後着
亞、條
矢野參事官
芳澤外務大臣
顧維鈞ノ滿洲行等ニ關シ十七日支那隨人側ヨリ得タル情報
顧維鈞ハ調査團ト共ニ滿洲ヨリ更ニ日本迄同行ヲ決意シ目下其隨人
ヲ詮衡中ナルカ南方ヨリ引連レタルモノノ中劉崇傑、金問泗ヲ同伴
スル外大半ハ北平ニ止メ之ニ代ルニ學良派ヲ以テスルニ決シ既ニ選
定セラレタハ海軍關係トシテハ沈鴻烈ノ代表及晨報記者戈公振新聞
報記者顧執中等ニシテ右兩人ハ何レモ北寧局人ノ名義ニテ隨行ノ由
支、南京、奉天、天津、長春へ轉電セリ

記録簿
滿洲日支軍衝突關係一併
送付
顧維鈞ノ入
投函

總在內存

外務省



編者附言
原書
1.1.0.21-12-1
滿洲日支軍衝突關係
係係
善後措置係
脈盤支那調査係
在

寫

分類 1.1.0.21-12-2-1

昭和7 九五五四 暗
北平 十八日後發
本省 四月十九日前着
矢野參事官
芳澤外務大臣
第一九八號 (大至急、極秘)
本官發奉天宛電報
第三三號
吉田ヨリ
北平宛貴電第八八號ニ關シ
御申越ノ次第ハ早速委員側ニ傳達シ置キタル處十八日午前委員長ノ
求ニ應シ本使ハ顧維鈞ト共ニ會見シタルニ委員長ハ奉山側其ノ他ニ
於テ特別列車ヲ奉天迄引込ミ且「ゲイジ」ノ同シ限リ各視察ニ之ヲ

外務省

S 1.1.1.0-34

266

0237

S 1.1.1.0-34

265

0236



編者附言
原書
1.1.0.21-12-2-1
滿洲日軍衝突事
係係
善後措置下係
脈盤支那調査員下係
在

寫

1.1.0.21-12-2-1

使用スルコトニ反對セララルハ既ニ日本政府ニ於テ出來得ル限り便
宜ヲ供與スルコトヲ約束セラレ居リ且右特別列車ハ委員側ニ於テ「
チャーター」シタルモノニシテ支那ノ列車ニハ非サル點ニモ顧ミ之
ヲ解スルニ苦ム所ナリ何レニスルモ明十九日夜當地出發奉天ニ向フ
コトト致度シト述ヘタルニ付本使ヨリ奉山側其ノ他ノ反對理由ヲ色
々説明シタルモ委員長ハ兎ニ角右大至急奉山側ニ傳ヘラレタル上諾
否問合セラレ度キ旨申出タリ
奉山側等ノ意見ハ尤モナルモ當方ニ於テ飽ク迄之ヲ固執スルニ於テ
ハ徒ニ問題ヲ紛糾セシムルノミナルニ付更ニ奉山側等ニ對シ好意的
考量ヲ求メラレ結果大至急回電アリ度シ
大臣、公使、長春へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0-34 267 0238

記録係
支那調査員
善後措置
脈盤支那調査員

昭和7 九五四三 暗 北平 十八日後發
本省 四月十八日後着
芳澤外務大臣 矢野參事官
第二〇〇號（極秘）
本官發奉天宛電報
第三五號
吉田ヨリ
十八日午前「リットン」トノ會談後鹽崎ヨリ「ハース」ニ對シ支那
側隨行者ノ多數ナルハ當方ノ非常ニ當惑セル處ニシテ宿泊其他警護
ノ點ヨリスルモ是非トモ最少限度ニ削減スルヲ要スル旨申入レタル
ニ同人ハ右ハ却々面倒ナルモ委員長ヨリ願維鈞ニ對シ話シ居ル處ニ

外務省

S 1.1.1.0-34 268 0239

シテ自分モ出來ルタケ努力スヘシト述ヘ次イテ特別列車奉天引入レ
ニ對スル奉山側ノ反對ハ甚タ困惑セル處ナルカナルヘク先方ノ同意
ヲ得ル様盡力セラレタシト述ヘタルヲ以テ今日ノ委員長御希望ノ次
第ハ奉天ヘ電報シ置キタルカ貴方ノ御考ハ列車ヲ奉天ニ引入レ後同
地ニ其儘止メ置クノミニシテ例ヘハ大連行等滿鐵線路ノ旅行ノ場合
ニモ右列車ヲ使用スル考ニ非サルヘク果シテ然ラハ到底滿鐵側等ニ
於テ同意セサルヘシト言ヒタルニ差當リ奉天行ヲ希望セル次第ニシ
テ滿鐵線上ノ旅行ノ問題ニ付テハ今日決定シ置ク要無カルヘシト語
レリ尙願維鈞カ陸路ヲ取ルコトニ對シテハ實ハ別段公報アリタル次
第二非サルモ自分カ間接ニ聞キタル處ニ依レハ若シ願維鈞カ陸路ヲ
取ルコトトナレハ彼ノ身邊ハ相當危險ナリトノ噂アリト内話シタル

は(七)

外務省

S 11.1.0-34

269

0240

ニ「ハース」ハ右ハ充分承知シ居レリト語レリ
大臣、支、天津、長春、聯盟ヘ轉電セリ

は(七)

外務省

S 11.1.0-34

270

0241



秘

電信寫

昭和7

暗

長春
本省

四月十八日後着

再
送

田代領事

第一六一號

本官發北平宛電報

第一號(至急)

吉田大使へ

貴官發奉天宛電報第二八號ノ趣旨新國家側ニ傳ヘタル處其首腦部ハ
聯盟委員一行ノ入滿ニ關シ未タ何等直接ノ通知若ハ挨拶ニモ接シ居
ラス現ニ一行ニ對スル累次ノ照會電報ニ對シテモ回答ヲ寄セサルノ
ミナラス滿洲國ニ對シ間接的ニモ何等ノ申出無キカ如キハ餘リニモ

新國家ノ滿洲ニ於ケル事實上ノ權力タル存在ヲ無視スル態度ニシテ
承服スル能ハス此ノ上ハ聯盟一行カ直接新國家側ニ對シ何等カノ形
式ニ依リ入滿挨拶ヲ爲ササル限り一行ノ申出ニ對シテモ考慮ヲ拂フ
餘地無シト稱シ居レリ御參考迄
大臣、支、奉天へ轉電セリ

S 1.1.1.0-34

272

S 1.1.1.0-34

271

0242

秘

電信寫

昭和7

奉天

本省 四月十八日 俊着

亞、條

森島總領事代理

芳澤外務大臣

第六〇〇號

本官發北平宛電報

第九一號

往復第八八號ニ關シ

命井ヨリ伊藤總領事官へ

伸線車輛使用ノ場合技術上豫メ關係當事者間ニ充分話合ヒ検査ヲ遂
クルニ非サレハ列車運行ノ安全ヲ期シ得サルコトニ付テハ當地「ハ
ガアム」モ能ク了解シ居レリ御參考迄
大臣へ轉電セリ

S 11.1.0-34

273

0243

REEL No. A-0180

0293

アジア歴史資料センター

亞細亞局

第一課

昭和七年四月廿五日接受

機密公第一九六號

別紙添附

昭和七年四月十八日

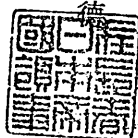
在長春

領事

田代

重

德



外務大臣 芳澤 謙吉 殿

公文書轉送方ノ件

當地謝外交總長發閣下宛別添公信外交部ヨリ依頼有之タルニ付茲ニ轉送申進ス

在長春日本領事館

S 1.1.1.0-34

274

0244

外交部照會第一號

為照會事近聞國際聯盟調查員一行行將來滿我滿洲國對於該調查員等之來滿雖不表示異議惟於顧維鈞之入國則不問其由何方面而來斷難承認就表面觀之顧等由貴國實力下之滿鐵附屬地進入時如無影響及於我國內治安之言動我方似不宜有何異議然事實上正當舊軍閥餘孽到處跳梁以擾亂我國之治安且在張學良心懷叵測欲使貴國與聯盟關係陷于糾紛不可收拾聞已派有多數便衣隊潛踪來滿以紊亂我國之治

考 備	示 批	辦 擬	由	事
				呈日本政府為拒絕顧維鈞等入滿之理由
				附 件

呈 字第 號 年 月 日 時到

S 1.1.1.0-34 276

S 1.1.1.0-34 275

收文 字第 號 0245

安并以威脅調查委員之安全在此種嚴重情勢之下若使顧維鈞等得托足於附屬地內則於我國之治安維持上必有重大不良之影響乃至明而不可諱者滿洲國有鑑於此亟願貴國對顧等由附屬地入境加以相當考慮酌與阻止若顧等仍執迷不悟而來滿擅越附屬地一步時我方惟有執斷然之處置以實力阻止之爾時關於我方之行動尚望貴國鑒諒以上情形勿與掣肘不勝盼切之至
竊查貴國現在駐兵於我國內地者乃本于我方之要求依善鄰之義保全我地方安寧今若援助以紊

S 1.1.1.0-34

277

亂我國治安為使命之舊軍閥爪牙之顧等深入我國之腹地殊與貴國駐兵之旨趣大相背馳想貴國萬不至出此自相矛盾之舉此固我國政府所深信而不疑者也用特專函照會請煩
查照至綏睦誼此致

278

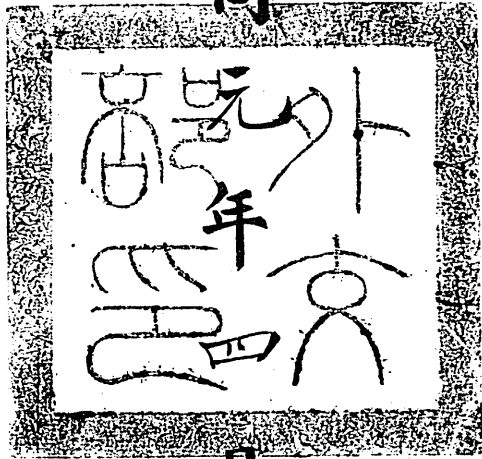
大日本帝國外務大臣芳澤

滿洲國外交部總長謝介石

S 1.1.1.0-34

0246

大滿洲國大同



月十七日

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

S 1.1.1.0-34

279

0247



外交部照會第一號

(顧維鈞入滿拒絕理由ニ關スル件)

以書翰致啓上候陳者最近國際聯盟調查員一行來滿セムトスル旨聞知致候處我滿洲國ハ該調査員ノ來滿ニ對シテハ異議ヲ表示セサルモ只顧維鈞ノ入國ニ對シテハ其ノ何レノ方面ヨリ來ルヲ問ハス斷シテ承認シ難キ所ニ有之候表面ヨリ之ヲ觀レハ顧等カ貴國實力下ノ滿鐵附屬地ヨリ進入スル場合若シ我國內治安ニ影響スル言動無キニ於テハ我方異議ヲ唱フルハ穩當ナラサルカ如キモ事實上舊軍閥ノ餘孽ハ到ル處ニ跳梁シ我國ノ治安ヲ擾亂シ且張學良ノ心懷測リ難ク貴國ト聯盟トノ關係ヲ紛糾セシメ收拾スヘカラサルノトキニ當リ已ニ多數ノ便衣隊ヲ滿洲ニ潛入セシメ我國ノ治安ヲ紊亂シ且調査委員ノ安全ヲ

外務省

は(下)

7.2 S 1.1.1.0-34

280

0248

は(下)

脅威セムト聞キ斯ノ如キ緊吃ナル情勢下ニ於テ若シ顧維鈞等ヲシテ附屬地内ニ滞留セシメハ我國ノ治安維持上必ス重大ナル惡影響アルハ甚タ明瞭ニシテ諱ムヘカラサルモノナルヲ以テ滿洲國ハ是ニ鑑ミテ速ニ貴國ヨリ顧等ニ對シ附屬地ヨリ入境スルハ相當ノ考慮ヲ加フヘキコトヲ注意セラレ之ヲ阻止セラルル様希望致候若シ顧等カ尙頑迷ニシテ悟ラス來滿シ擅ニ附屬地ヨリ一步ヲ越ユル場合ニハ我方ハ只斷然タル處置ヲ執リ實力ヲ以テ之ヲ阻止スヘク此ノ場合ノ我方行動ニ關シテハ貴國ニ於テ以上ノ事情ヲ諒察セラレ之ヲ掣肘セラレサルコト切望ニ堪ヘサルトコロニ有之候查スルニ貴國カ現在我國内ニ駐兵スルハ我方ノ要求ニ基キ善鄰ノ義ニ依リ我地方ノ安寧ヲ保全セラルルモノニシテ今若シ我國治安ヲ紊

外務省

7.2 S 1.1.1.0-34

281

0249

亂スルヲ以テ使命ト爲セル舊軍閥ノ爪牙タル顧等ヲ援助シ深ク我國
 腹地ニ入ラシムルハ貴國駐兵ノ旨趣ト甚タ相背馳スルトコロニシテ
 貴國ハ萬々此ノ矛盾セル舉ニ出テサルヘキハ固ヨリ我國政府ノ深ク
 信シテ疑ハサル所ナルモ右御諒承ノ上可然御配慮相成度此段照會得
 貴意候 敬具

大滿洲國大同元年四月十七日

滿洲國外交部總長 謝介石

大日本帝國外務大臣 芳澤謙吉殿

外務省

7.2 S 1.1.1.0-34: 282 0250

著附言

A. 1. 1. 0. 21/12/12
 滿洲日支衝突事關關係

善後措置關係
 縣監及那桐重臣
 關係
 ニアリ

馬

昭和7 九六一三 暗

北平 北平 四月十九日後着

一件 芳澤外務大臣

第二〇六號

本官發長春宛電報

第三號

吉田ヨリ

北平宛貴電第一號ニ關シ

「リットン」ハ

一、第一回ハ外交部書記官ヨリトアリ日程及人名ヲ問合セタルモノナ
 ルモ同日日程ハ長春ニテ發表アリシニ付既ニ何レヨリカ入手済ミ

記録簿
 善後措置關係
 縣監及那桐重臣
 關係
 矢野參事官

外務省

7.4 S 1.1.1.0-34: 283 0251

ノコトト思ヒ又人名ニ付テハ今日迄確定セサリシ次第ナリ
ニ外交總長ヨリノ顧維鈞ニ關スル電報ニ付テハ自分ハ同總長又ハ當
該官憲ニ面會ノ上話合ヒ度キニ付回答シ得サリシナリ
ト述ヘタリ右然ルヘク先方へ御取計ヒアリ度シ
大臣、支、奉天へ轉電セリ

は(七)

外務省

S 11.1.0-34

284

0252

REEL No. A-0180

0300

アジア歴史資料センター

電信寫

本紙
A11.0.25-3

電報

略

南京
本省

四月十九日後着

情

上村總領事代理

第三三三號

十九日ノ中央日報ハ記者ノ質問ニ對スル羅文幹ノ談話ナルモノヲ掲載セルカ其要領左ノ通

一、願維鈞ノ入滿問題ハ聯盟調査團ノ行動ニ關スルモノナルヲ以テ何レノ方面ヨリスルモ其ヲ拒否スルヲ得ス又其安全ニ付テハ日本側ニ於テ責任ヲ負フヘキモノトス軍隊ヲシテ護送セシムルコトハ元來叛逆政府ノ不當ナル行動ヲ豫防セントスルモノニシテ且東三省ハ支那ノ領土ナルヲ以テ差支ナキモ未タ決定スルニ至ラス目下張

學良ヲシテ調査團ト安全辦法ニ付協議セシメツツアリ

二、昨日接到セル調査團支那代表ノ電報ニ依レハ一行ハ時間ヲ節約スル爲山海關ヨリ打虎山ヲ經テ通遼ニ出テ滿鐵ニテ哈爾濱ニ赴キ奉天ニ引返スコトトナレリ

三、停戰會議開始以來日本側ハ常ニ交渉ヲ遷延シ日本ハ聯盟決議案以外ノ種々ノ問題ヲ持出シ我方ヲシテ討議ニ參加シ得サラシメタルハ故意ニ會議ヲ打毀シタルモノト謂フヘシ我方ハ此際聯盟ヲ信頼シ靜ニ解決ヲ待ツヘシ重光公使カ米園公使ヲ通シ我方ニ對シ會議繼續方ヲ要求セリトノ說ハ未タ自分ハ承知セス
支、北平、奉天、長春へ轉電セリ

S 1.1.1.0-34

286

S 1.1.1.0-34

285

0253

秘

本件
A111021-22-2

電信寫

和7

暗

北平 四月十九日午前

亞

再

芳澤外務大臣

矢野參事官

第二〇一號

口田ヨリ

第四九號

北平發奉天宛電報第三三號ニ關シ

十八日午前「リットン」及艦隊鈞ト會見ノ節

「リットン」ハ大イニ驚キ理由ヲ質シタルニ願ハ客年十二月十日ノ決定ニ

基キ日本政府ノ便宜供與ヲ期待スト答ヘタリ「リットン」ハ右ハ日支兩

國ノ約束アルモ滿洲國ハ此ノ決議ニ拘束セラレレスト駁シ其ノ再考

ヲ求メシニ願ハ既ニ右請訓シ居レリト答ヘタリ

ニ支那側ハ隨員トシテ約三十五名ヲ委員側ニ通告シ右ニ對シ我方ヨ

リ極力減員ヲ求メ「リットン」ハ願ニ對シ滿洲ニ於テハ委員ハ證據蒐

ニ止マリ請議ヲ爲スニ非サルヲ以テ多人數ノ不必要ヲ説キシニ願

ハ滿洲ニ於テハ日本側ハ參與員隨員ノ外各種機關ヲ有シ居レルヲ

以テ多數専門家ヲ有シ得ヘキモ此ノ便宜ヲ有セサル支那側ハ相當

隨員ヲ同行スル必要アリト陳辯セリ之ニ對シ本使ハ坂本ニ對シ方

主張セリ

奉天ヨリ長春ニ轉電アリ度シ

公使、奉天、聯盟ニ轉電セ!

S 1.1.1.0-34

288

S 1.1.1.0-34

287

0254

REEL No. A-0180

0302

アジア歴史資料センター

秘

電信寫

昭和7

北平

本省 四月十九日前着

人

再

書

芳澤外務大臣

矢野参事官

第三〇二號 (至急)

吉田ヨリ

第五〇號

顧維鈞問題ヲ始メトシ滿洲入りノ經路等ニ關シ事件紛糾シ委員及支那側トノ折衝ノ爲最近極メテ多忙トナリ來リ人員手薄ノ爲困難シ居ル處一行カ滿洲ニ入りタル後ハ顧維鈞問題ノミナラス於程「プロگرام」等今日以上ノ面倒ナル問題ノ頻發スヘキコト豫想ニ難カラサルヘク委員及支那側ノミナラス軍部、滿洲國側等トノ聯絡ノ如キ機

微ナル關係モアリ事務ハ一層繁劇トナルヘク現在ノ外務省側隨員ノミニテハ到底滿ニ專ラ違フコト困難トナルヘキニ付少クトモ事務官三名、書記生二、三名大至急奉天ニ出張セシメラルル様御配慮仰度シ

S 1.1.1.0-34

290

S 1.1.1.0-34

289

0255

REEL No. A-0180

0303

アジア歴史資料センター

電信寫

秘

昭和7

暗 北平 四月十九日 前着

亞

芳澤外務大臣

矢野参事官

第二〇三號 (至急)

吉田ヨリ

第五一號

貴電第七號ニ關シ

往電第四九號ノ通委員長ハ一行一部ノ我艦逐艦便乗ヲ願ヒタリ艦隊
行動ノ都合アルヘキモ機微ノ本件處理ノ必要上本使ノ責任ニテ之ヲ
引受ケタリ右ノ事情海軍側ヘ説明ノ上謝意申入ヲ請フ

再

由

S 1.1.1.0-34

291

0256

秘

昭和7

暗 北平
本省

四月十九日後諭

亞
再

芳澤外務大臣

矢野參事官

第二〇四號

吉田ヨリ

第五二號

十八日午後「リットン」ノ内話左ノ通

一、特別列車ヲ仕立テ支那人給仕料理人ヲ使用スルハ顧維鈞カ生命ニ
危険ヲ感セル爲ノ余ノ考案ニシテ奉天ニテ列車ニ入レ身邊ヲ保護
セン爲ニシテ余自身ノ爲ナラハ使用人カ日支何レニテモ可ナリ誤
解ナキヲ請フ

電信寫

二、調査ハ支那人ノ徘徊スヘキ列車内ニテセス中立國領事館ニテ爲サ
ン

三、願ハ飽迄陸路ヲ固執セハ余ハ大連ニ渡ルヤモ知レス或ハ兩參與員
及其隨員ヲ北平ニ殘シ委員ノミ滿洲ニ赴キ先方ト了解ヲ付ケ呼寄
スルモ一策ナラン（本使ハ願カ山海關ヲ經ハ本使一切責任ニ任セ
スルニシテヘシニ）勿論ナリ

四、（本使ハ委員ハ新國家カ我政府ノ意ノ儘ト思ハルレハ大ナル誤ニ
シテ彼等ハ獨立ヲ「アツサート」セルカ故ニ交渉困難ナル譯ナリ
帝國政府ハ同國未承認ナルモ少クトモ之ヲ地方官憲ト同視シ居ル
ニ委員カ同國ヲ無視スル態度ナラハ面倒起ラント述ヘシニ）充分
心得丁寧ニ振舞ハン

S 1.1.1.0-34

293

S 1.1.1.0-34

292

0257

兵伊藤氏トノ經緯ニ付テハ余誤テリ併シ彼ハ噓セシニ付堪ヘラレサ
リシナリ

六、滿洲ニテハ調査多忙ニ付何地ヲ問ハシ催ハ凡テ辭退スヘシ

七、(本使ハ貴下ハ最近我ニ何等偏見ヲ有セスヤ最モ重大ナル滿洲間

題調査ニ先立チ左様ナラハ遺憾ニ堪ヘスト述ヘシニ) 右ハ全然貴

方ノ誤解ニシテ余ノ考ヘ日本ニ在リシ時ニ異ラス今後腹臆ナク話

サレ度ク無禮ノ點アラハ請フ恕セヨ

奉天ヨリ長春へ轉電セシム

支、奉天へ轉電セリ

S 1.1.1.0-34

294

0258

REEL No. A-0180

0305

アジア歴史資料センター

秘

電信寫

昭和

北平

本省

四月十九日

前着

再

矢野參事官

芳澤外務大臣

第二〇五號（至急）

本官發奉天宛電報

第三七號

吉田ヨリ

十八日夜「リットン」ヨリ左ノ通申出タリ

一、該列車乗入レ方承諾ヲ得スハ奉天滯在中滿鐵備ノ汽車内ニ委員側

ハ願維鈞及其ノ隨員ト共ニ宿泊シ支那人「ボーイ」料理人等ノ使

用ヲ許サレタシ

二、同電ノ列車乗入レ不可能ナラハ十九日夕方出發秦皇島ヨリ日本艦

巡艦ニテ又支那側一行ハ同國巡洋艦ニテ大連ニ渡ルコトトスヘシ

就テハ右一ニ對シ大至急御回電アリタシ

大臣、支、長春、聯盟へ轉電セリ

S 1.1.1.0-34

296

S 1.1.1.0-34

295

0259

REEL No. A-0180

0307

アジア歴史資料センター

秘

電信寫

昭和7

平 北平
本省

四月二十日 前着

亞

再

芳澤外務大臣

矢野参事官

第二〇七號

吉田ヨリ

一、渡大佐ハ事務ヲ台セ 爲一行ニ先ンシ十九日朝當地發陸路赴奉セ
リ二十日夕奉天着ノ豫定

二、伊藤参事官及陳ハ十九日當地發天津ニ一泊ノ上二十日塘沽發ノ天
津丸ニテ二十一日大連着ノ豫定

三、本使以下「ヘバン」鹽崎、森、好富、貴布根、木村、角田、佐藤
江間ハ十九日在當地發二十日秦皇島ヨリ海路大連ニ向フ

奉天ニ轉電セリ

奉天ヨリ關東總滿鐵ニ轉電アリタシ

S 1.1.1.0-34

298

S 1.1.1.0-34

297

0260

REEL No. A-0180

0303

アジア歴史資料センター

轉者附言

原考
A.1.1.0.2/12-2

滿洲日共黨衝突事變關係
責任秘書團係
聯軍支那調査
員關係
ニアリ

寫

(分類A.1.1.0.2/12-2-1)

昭和7	九六三六	暗	北平	四月十九日	後發
			本省		着
芳澤	外務大臣				矢野參事官
號	二〇八號				
吉田	ヨリ				
第五三號					
往電	第四九號ニ關シ				
願	維鈞ハ南京政府ノ回訓接到シタル趣ヲ以テ海路大連ニ赴クコトトナレリ				
支、	奉天、聯盟ニ轉電シ奉天ヨリ長春ニ轉電セシム				

外務省

は(七)

S 1.1.1.0-34

299

0261

REEL No. A-0180

0309

アジア歴史資料センター

秘

電信寫

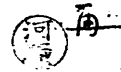
昭和7

暗

北平
本省

四月十九日
後着

亞



矢野參事官

芳澤外務大臣

第二〇八號

吉田ヨリ

第五三號

往電第四九號ニ關シ

顧維鈞ハ南京政府ノ回訓接到シタル趣ヲ以テ海路大連ニ赴ク事トナ
レリ

支。奉天、聯盟ニ轉電シ奉天ヨリ長春ニ轉電セシム

S 1.1.1.0-34

300

0262

REEL No. A-0180

0310

アジア歴史資料センター

電信寫

昭和7

略

北平
本省

四月二十日前着

再
原

芳澤外務大臣

矢野參事官

第二〇九號（至急）

本官發奉天宛電報

第三九號

吉田ヨリ

聯盟調査委員一行ハ左ノ通り組ヲ分チ入滿スルコトナレリ

(イ) 汽車ニ依ルモノ

「アルドロバンディート」、「マツコイ」、「ハリス」、「カウツ
アンゼリノ」、「ヤング」、「コツホイ」、「シヤレイル」、「

プレイクヌ」、「ビドル」、「ノツクス」（女）、「ラベルビス」
（女）、「メーナード」以上十二名

(ロ) 帝國艦逐艦ニ依ルモノ

「クロードル」、「シユネイ」、「バステユホフ」、「ジユボレ
イ」以上四名ノ外日本側參與員、同隨員及我新聞記者計十五名

(ハ) 支那軍艦ニ依ルモノ

「リットン」、「ベルト」、「アスター」、「リエジョア」、「
ロバーツ」。吳秀峰以上六名ノ外支那側參與員、同隨員約二十名

ニ以上何レモ十九日午後特別列車ニ依リ當地發(ロ)及(ハ)ハ二十日午前

奏皇島ヨリ夫々軍艦ニ搭乗大連ニ向ヒ(ロ)ハ同日午後大連着ノ豫定

(イ)ハ北寧列車直通困難ナルモノトシテ山海關ニ於テ奉山側列車ニ

S 11.1.0-34

302

S 11.1.0-34

301

0263

乗換へ赴奉ノ豫定ナル處若シ奉山側特別列車差向ケラルレハ右ニ
依リ然ラサル場合ニハ普通列車(多分二十一日午前四時發ナラシ
ニ搭乘センコトヲ申出テタルニ付テハ關係方面ト御打合ノ上必要
ノ保護及便宜供與方御取計相煩度シ

長春、關東廳、滿鐵へ轉電アリタシ
大臣へ轉電セリ

秘

電信寫

昭和7

暗

北平
本省

四月十九日後着

矢野参事官

再
印

第二一〇號

貴電第七九號ニ關シ

吉田ヨリ

往電第四九號トアルハ第四三號ノ誤リ

0265

304

S 1.1.1.0-34

REEL No. A-0180

0313

アジア歴史資料センター

秘

電信寫

昭和7

暗

奉天
本省

四月十九日後着

亞再

森島總領事代理

芳澤外務大臣

第六一〇號

本官發北平宛電報

第九五號

吉田大使へ

支那側隨員甚々多數ナル趣ノ處斯クテハ警衛上接待上不便鮮カラサルニ付若シ支那本部内旅行中ノ日本隨員數ニ局限シ得ストスルモ能フ限り小數ニ止ムル様致シタシ
大臣、支、長春へ轉電セリ

S 1.1.1.0-34

305

0266

REEL No. A-0180

0314

アジア歴史資料センター

電送第 8272 號

昭和 7 年 4 月 29 日 啓 5 時 0 分 發

電 信 案	第 七 七 號	宛	件	主 管
		在 北 平 矢 野 参 事 官	解 任 下 滿 州 國 之 關係	長 官 任 主 任
外 務 省		發 名	達 綴	(起 草 大 正 七 年 四 月 廿 九 日) (原 議 用 紙 甲) 四 角
		發 名	達 綴	

次
長
の
為
に

電信課長 備忘

電信案

S 1.1.1.0-34

306

0267

REEL No. A-0180

0315

アジア歴史資料センター

極秘

桂田平 扶野書記官

青澤木臣

伊藤參事官へ

吉田大使來電第三七號及第四五號ニ關シ

「ハース」ニ對スル談話ノ如ク新國家ノ成立ハ十二月十日理事會決議ノ豫見セサリシ事態ナルモ我方ニテハ右新國家ノ成立ニ拘ラズ引續キ滿蒙地方ニ於ケル治安維持ノ責務ハ我方ニテ負擔スルモノナリトノ建前ヲ執リ居リ右ハ我方對滿政策ノ重要ナル根底ヲナス次第ニテ（北平宛往電第^九號冒頭）何レ途我方ハ調査委員ノ同地方ニ於ケル任務ノ遂行ニ對シ出來得ル限りノ保護ヲ與フルヲ要スル譯ナリ然ルニ我方ニテ滿洲國成立ナル新事態ヲ強調スル等ノ結果調査委員カ願維鈞入國問題ニ關聯シ其ノ行動振ニ付指揮ヲ仰クコトトナル

外務省

7.2 S 1.1.1.0-34 307

0268

トキハ^{自然}新國家問題自身カ此際直チニ聯盟ニテ討議セラルルコトトナリ我方トシテ得策ナラスト存ス

就テハ「ドラモンド」モ本件ハ「リットン」卿ヲシテ處理セシメ度意向ナリト申シ居ルニ鑑ミ（壽府來電第^{三〇}號）我方ニ於テ此ノ上共滿洲國側ノ説得ニ努ムルト共ニ委員側ヲシテ理事會ノ指揮ヲ求ムルカ如キ態度ニ出テシメサル様仕向ケラルルコト肝要ト存ス尙ホ吉田大使來電第四五號ノ如ク附屬地外ノ視察ニハ日支双方ノ參與員トモ調査委員ニ同行セサルコトトスル考案ノ可否ニ付テハ目下折角攻究中^ヤ本件ヲ理事會ニ「リットン」セシメサルタメ有效ナルニ於テハ右考案採用方考慮ノ余地ナキニ非ストモ思考シ居ル次第ナル處該考案採用ノ結果後日ニ至リ日支參與員ヲ除外シタル調査ノ結果

外務省

7.2 S 1.1.1.0-34 308

0269

REEL No. A-0180

0315

アジア歴史資料センター

電送第 8280 號
 昭和 7 年 4 月 19 日 啓 5 時 20 分 發

電 信 案	吉田大使へ	貴電第五一號ニ關シ	貴電前段ニ「往電第四九號（北平發本大臣宛電報第二〇一號）ノ通 リ云々」トアル處右 （ <i>電報第五二號</i> ） （北平發本大臣宛電報第一八四 號）	宛 在 北 平 矢 野 參 事 官	件 支 那 領 事 官 ノ 場 ノ 件	管 主 亞 細 亞 局 長	任 主 亞 細 亞 局 長	（原議用紙甲） 昭和 7 年 4 月 19 日
					第 七 九 號	發 名 達 級	芳澤大臣	

S 1.1.1.0-34

310

0271

外
務
省

ハ不完全ナルモノナリトノ非難ヲ招クカ如キコトナキヤ十二月十日
 理事會決議當時ノ事情ニ通曉セラレ居ル貴官ノ意見至急回電アリ度
 奉
答
長
官
矢
野
參
事
官
ヨリ

S 1.1.1.0-34

309

0270

電送第 8330 號

昭和 7年 4月 19日 10時 30分

電信案

外務省

S 1.1.1.0-34

312

0273

主 任 大橋 司 長 傳 達 件
 在 長 春 田 代 領 事
 發 名 達 級 芳 沢 大 佐
 別 由 電 報 五 一 号 内 密 ・ 大 橋 司 長
 傳 達 セ ラ レ 度

電信課長

電信案

(原議用紙甲) 圖柄

電信案

外務省

S 1.1.1.0-34

311

0272

號ノ又ハ他ノ貴電ノ誤ニ非サルヤ爲念回電アリ度

(原議用紙乙)

電送第 8331 8333 號

昭和 7 年 6 月 19 日 1 時 10 分

電 信 案	宛	件	主
		大橋司長傳達件	正田高三
外 務 省	在長春	任	主
	田代領事	正田高三	正田高三
	第五	號	(起草)
	極	急	大正 7 年 4 月 19 日
	發	名	達
	芳	氏	大臣

電信課長

電信案

(原議用紙甲) 團印

S 1.1.1.0-34

313

0274

REEL No. A-0180

0319

アジア歴史資料センター

機秘

144
毛

「帝國ト滿洲國トノ關係ハ極メテ機微ナルモノ存シ我方トシテハ表
 面上新國家ノ獨立國タルコトヲ尊重シツツ而モ實際ニ於テハ新國
 家ヲシテ苟モ我方ノ利益ヲ無視シ又ハ我方ノ立場ト衝突スルカ如
 キ態度ニ出テシメサル様之ヲ指導スルヲ要スル譯ニテ右ハ政府ト
 シテ最モ苦心シ居ル點ナルコト御想像ニ難カラサルヘク貴司長御
 承知ノ筈ナル三月三日閣議決定ノ「滿蒙新國家成立ニ伴フ對外關
 係處理要綱」ノ如キモ全ク前記考慮ニ基キ各方面熟議ノ結果作成
 セラレタルモノナリ

然ルニ今回計ラスモ顧維鈞入滿問題ノ發生ヲ見タル次第ナル處滿
 洲國側カ立國創々ノ際豫テ札付ノ人物ニテ且張學良ト特殊ノ關係
 ヲ有スル顧維鈞ノ入滿策動ヲ極度ニ警戒スル心理ハ當方ノ充分ニ

外務省

7.2 S 1.1.1.0-34

314

0275

諒解スル所ナルモ一方我方トシテハ長春宛往電第 **三六** 號及北平
 宛往電第 **六九** 號ノ通り調査委員一行ニ對シ必要ノ保護ヲ與フヘ
 キコトヲ約束シ居ルノミナラス右約束ヲ満足ニ實行スルコトハ申
 本于於カ **滿洲全般ノ治安維持ニ任シ居レリトノ我方ノ主張ヲ彈メ**
 將來ニ於ケル我方ノ地歩ヲ有利ナラシムル義ニテ此ノ點ニ於テ日
 滿兩者ノ立場ハ衝突ヲ來ス譯ナルカ右衝突ハ是非共之ヲ調和スル
 コトヲ要スル次第ナリ

仍テ當方ニ於テハ前記我方ノ立場ヲ保持シツツ滿洲國ノ面目ヲモ
 取繕フ見地ヨリシテ北平宛往電第 **六九** 號大連廻案ヲ提議シタル
 結果調査委員側ニテモ之ニ傾キ來レル矢先長春來電第一六〇號謝
 介石申出ノ右申出ニ對シテハ回答セサル意向ナリ

外務省

7.2 S 1.1.1.0-34

315

0276

ノ立場ヲ益々困難ナラシムル事ノニシテ我方トシテハ右申出ニ拘
 ラス何等參與員ヲ含ム調査委員一行ノ附屬地滞在ヲ阻止セサルヘ
 キノミナラス其ノ附屬地外巡歴ニ對シテモ前記如く我方ノ立場ニ顧
 ミ警衛ノ爲メ軍隊等ヲ陸シ之カ保護ニ任セサルヲ得サル次第ナル
 處斯克テハ日滿兩國●正面衝突ノ奇觀ヲ呈スルヲ止ラス必スヤ支
 那側ノ乘スル所トナリ滿洲問題ノ前途ニ對シ憂慮スヘキ影響ヲ來
 ス○虞アリ

早布ノ如キ事態ノ發生ハ我方トシテ到底忍ビサルト共ニ滿洲國ノ將
 來ニ取りテモ好マシキ所ニ非ルヘキ處既チ滿洲國トシテハ其ノ立
 場ヲ充分ニ明ニシタル次第ナルヲ以テ此ノ上ハ我方ノ立場ヲ尊重
 スル見地ヨリシテ顧維鈞等入滿後ノ行動ヲ監視スツツ調査委員一
 員ノ其ノ其ノ任務ヲ行ハシムル事ヲ期ス

7.2 S 1.1.1.0-34 316 0277

行カ我方保護ノ下ニ滿洲各地ヲ巡歴スルヲ辭觀スルノ態度ニ出ツ
 ルモ敢テ其ノ面目ヲ害スルコトモナカルヘク一方顧維鈞等ノ策動
 ハ我方ニテ其ノ身邊ヲ保護シツツ其ノ間諜密ニ警戒ヲ加フレハ之
 ヲ防止スルニ難カラサルヘシト存ス將又滿洲國ニテハ顧維鈞等支
 那側ノモノカ調査委員ニ附隨シテ入滿スレハ新國家成立前後ノ事
 情等筒拔ケニ同委員ニ知レ渡ルヘシト懸念存スルヤモ知レサル
 モ右懸念ハ調査委員ニ於テ支那語ヲ解スル歐米人ヲ使用スレハ同
 様ナルヘク(北平來電第一九二號參照)尙ホ調査委員側ニテハ有名
 ナル支那通ニテ支那語ニ堪能ナル蘭國人ヲ呼寄セ居ル由ニテ同人
 ハ近日中ニ着滿ノ筈ナリト云フ此ノ點ハ滿洲國側ノ要人連ヲ豫メ
 充分ニ指導シ置ク外ナカルヘシ

7.2 S 1.1.1.0-34 317 0273

外務省

三
要之調査委員ノ取扱ハ同委員ヲシテ充分ニ満洲ノ實情ヲ視察セシ
メ大局上ヨリシテ現下ノ事態ヲ是認セシムル様仕向クルコトヲ以
テ重點トスヘク從テ委員連ヲシテ先入主等ヲ去リ如實ニ満洲ノ現
狀ヲ視察セシムルコト肝要ナル次第ニシテ當方ニ於テ豫テ右ノ
點ニ充分ニ留意シ來リ調査委員ノ東京滞在中ハ勿論其他凡有ル機
會ヲ捉ヘ之カ誘導ニ努メタル結果委員連ノ態度ハ些細ノコトヲホ
シカラズ大局論ヲ以テ進ム傾向ニ向ヒ我方ニ對シ比較的有利ト認
メラレ。但シタル次第ナル處北平來電第...
初メテ...ノコトニ甚ダ遺憾ニ堪エサル...
ハ致方ナシトスルモ責メテ今後日滿双方ノ密接ナル連絡ノ下ニ調

外務省

は(ト)

S 1.1.1.0-34

318

0279

查委員カ愉快ニ其ノ任務ヲ遂行シ得ル様配慮スルコト緊要ト存ス
然レニ本大臣カ貴司長ノ新國家就任ニ双手ヲ擧ゲテ贊同シタルハ斯
種難問題發生ノ際我方ノ立場ニ通スルト共ニ軍部并新國家側トモ
圓滿ナル關係ヲ有スル貴司長ノ如キ人物ノ日滿間ニ介在スルコト
ニ依リ兩國ノ立場ヲ調和シ得ヘキヲ期待シタルカ爲メ干シテ本件
石ノ事...ノ如キ趣旨ニ依リ何トカ圓滿ナル解決ヲ達スル様此ノ上
御精力アラムコトヲ切望スル等...
是トヤアノコト

外務省

は(ト)

S 1.1.1.0-34

319

0280